

信濃町の埋蔵文化財

平成18年度町内遺跡発掘調査報告書
—清明台遺跡ほか—

2007

長野県

信濃町教育委員会

平成18年度町内遺跡発掘調査報告書

—清明台遺跡ほか—

2 0 0 7

長 野 県

信濃町教育委員会

例 言

1. 本書は平成18年度に実施した長野県上水内郡信濃町における開発事業に伴う発掘調査、試掘調査、確認調査の報告書である。
2. 調査は国からの補助金交付を受けて信濃町教育委員会が実施した。
3. 本書の執筆、編集は調査担当者である渡辺哲也がおこなった。編集の補佐を藤田桂子がおこなった。
4. 本調査の遺物、実測図、写真等の資料はすべて信濃町教育委員会に保管されている。出土資料の記号は清明台遺跡が [06SM]、海端遺跡が [06UM]、照月台遺跡が [06SG]、柳原遺跡が [06YH]、一里塚遺跡が [06IR]、諏訪ノ原遺跡が [06SW] である。
5. 調査体制は次のとおりである。

調査主体者 信濃町教育委員会
事務局 教 育 長 小林豊雄
 教 育 次 長 静谷一男
 生涯学習係長 丸山茂幸
調査担当者 生涯学習係 渡辺哲也
発掘参加者

(1. 清明台遺跡) 篠崎和美、高橋是清、田村勇、深澤政雄、藤田桂子、山崎啓一、(3. 海端遺跡) 高橋是清、田村勇、深澤政雄、山崎啓一、(4. 照月台遺跡) 高田昭夫、田村勇、深澤政雄、藤田桂子、(5. 上ノ原遺跡) 篠崎和美、藤田桂子、(6. 上ノ原遺跡) 篠崎和美、高橋是清、田村勇、深澤政雄、藤田桂子、山崎啓一、(9. 東裏遺跡) 高橋是清、田村勇、深澤政雄、山崎啓一、(10. 柳原遺跡) 篠崎和美、高橋是清、田村勇、深澤政雄、藤田桂子、山崎啓一、(11. 一里塚遺跡) 高橋是清、田村勇、深澤政雄、(12. 諏訪ノ原遺跡) 高橋是清、田村勇、山崎啓一

※遺跡名の前の数字は図1と表1に対応する。

整理参加者 篠崎和美、藤田桂子

6. 清明台遺跡の一部の石器石材について、中村由克氏(野尻湖ナウマンゾウ博物館)から鑑定していただいた。
7. 調査をおこなうにあたり、次の方々には多大なるご協力をいただいた。記してお礼を申し上げる次第である。北村勝博、小林昭三、小林儀市、小林達也、小林美鈴、佐藤範征、塩浦綾子、清野真秀、西原幸男、吉川信夫、若月富夫、渡辺孝俊、信濃中学校、株式会社総合環境研究所、信越工業株式会社、中信建設株式会社、トレスホームズ株式会社、中藤建設株式会社、長電建設株式会社、長谷川興業、藤沢工務店、有限会社古沢建築

(敬称略)

目 次

I 信濃町の環境と遺跡	1
1. 自然的環境	1
2. 歴史的環境	1
II 調査の内容及び成果	1
1. 清明台遺跡(2006個人住宅地点)	2
2. 仲町遺跡	12
3. 海端遺跡(2006倉庫建設地点)	12
4. 照月台遺跡(2006個人住宅地点)	13
5. 上ノ原遺跡(2006研究所地点)	14
6. 東裏遺跡	16
7. 野尻湖団地遺跡	17
8. 東裏遺跡(2006個人住宅地点)	17
9. 柳原遺跡(2006信濃中学校地点)	17
10. 一里塚遺跡(2006個人住宅地点)	20
11. 諏訪ノ原遺跡(2006個人住宅地点)	21
12. 諏訪ノ原遺跡	22
写真図版	25

I 信濃町の環境と遺跡

1. 自然的環境

信濃町は長野県の北端に位置し、新潟県妙高市と県境を接している。町域は東西方向に概ね3つの地形に分けられる。東部は第三紀鮮新世から第四紀前期更新世の堆積岩を主体とする基盤山地が占め、それらの上を斑尾山起源の安山岩溶岩が覆っている。野尻湖はこの基盤山地の中にあり、およそ7万年前にその原形ができたといわれる。西部は第四紀中・後期更新世の飯縄山、黒姫山の火山地形が占める。この東西の山地に挟まれた中央部に低地帯があり、主に後期更新世から完新世の湖沼・河川堆積物からなる丘陵、段丘、低湿地などになっている。

野尻湖を水源とする池尻川は関川水系に属し、北方へと流下する。一方、長野市戸隠を水源とする鳥居川は千曲川（信濃川）水系に属し、南東方向へ流下する。この二つの水系の分水嶺は柏原地区に位置し、その辺りはなだらかな高原状の地形となっている。こうした平坦な地形は内陸部と日本海側をつなぐルートとして古くから利用されてきたものと考えられる。

現在人々が暮らす居住域は標高700m前後の地域で、日本海側の気候に属し、冬期は寒冷で多雪、夏期は比較的冷涼で、避暑地として利用されている。

2. 歴史的環境

信濃町は前述のような地形の特徴により、日本海側と内陸部をつなぐ交通の要所にあたるため、古くから人々の往来が盛んであったと思われる。野尻湖の西側の湖底に広がる立が鼻遺跡はおよそ4万年前の狩猟・解体場遺跡（キルサイト）と考えられており、

ここがゾウの通り道であったことがうかがえる。国内有数の後期旧石器時代の遺跡が集中する地域であることから、遊動する旧石器人にとって交通の要所であったことは明らかである。古代の東山道支道が通っていたと推定され、また、江戸時代には北国街道が整備された。関川を境として信濃と越後の国ざかいがあったため、こうした歴史的な地理的条件も備えた地域でもある。中世の山城が多いことも交通の要所として争奪戦がおこなわれた地であることを物語っている。

信濃町には現在までに173ヶ所の遺跡が知られているが、時代により遺跡数の変遷にその特徴が見出せる。①旧石器時代の遺跡が集中する。②縄文時代では草創期、早期の遺跡数は多いが、前期以降の遺跡数は少ない。特に中期が少ない。③弥生時代、古墳時代の遺跡数も少ないが、平安時代になると遺跡数が多くなる。今年度の調査でも、この傾向を追認する結果となった。

II 調査の内容及び成果

個人住宅建設に伴う発掘調査と大規模開発に係る試掘調査・確認調査を対象として国庫補助事業を実施した結果、平成18年度は図1及び表1に示したように13ヶ所を調査した。これには工事立会4件を含めた。前年度の調査件数が2ヶ所であったことに比べると、遺跡に係る開発

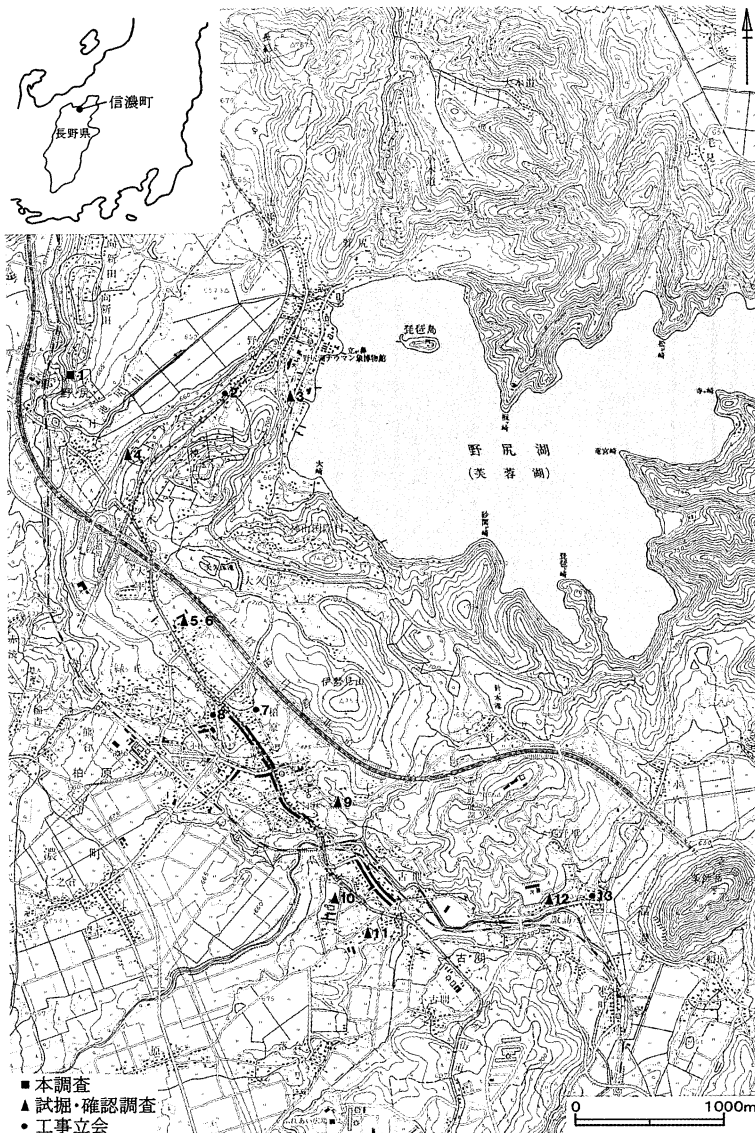


図1 調査地の位置（信濃町役場平成15年12月作成 1/25,000地形図を使用）※番号は表1に対応

表1 平成18年度に調査した遺跡一覧

No.	遺跡名	よみ	原因	調査方法	調査面積	調査期間	出土点数	発掘届日	終了届日
1	清明台	せいめいだい	個人住宅	発掘	23.5㎡	9/20～9/29	463点	7/20	10/6
2	仲町	なかまち	個人住宅	立会	(324㎡)	7/7	0点	5/10	
3	海端	うみはた	倉庫建設	試掘	5.9㎡	11/7	10点	9/8	11/13
4	照月台	しょうげつだい	個人住宅	試掘	7.6㎡	4/24～4/25	3点	2/14	5/2
5	上ノ原	うえのはら	研究所	確認	38㎡	6/22～6/23	0点	4/28	7/12
6	上ノ原	うえのはら	下水道管	試掘	4.8㎡	11/7～11/10	0点	7/13	11/16
7	東裏	ひがしうら	個人住宅	立会	(311㎡)	6/30	0点	4/25	
8	野尻湖団地	のじりこだんち	個人住宅	立会	(325㎡)	7/5	0点	4/2	
9	東裏	ひがしうら	個人住宅	試掘	7.2㎡	9/20	0点	6/20	9/27
10	柳原	やなぎはら	学校建設	確認	97.6㎡	11/22～11/27	11点		12/4
11	一里塚	いちりづか	個人住宅	試掘	8㎡	9/28～9/30	16点	7/20	10/6
12	諏訪ノ原	すわのはら	個人住宅	試掘	5.1㎡	9/13	15点	7/3	9/20
13	諏訪ノ原	すわのはら	倉庫建設	立会	(700㎡)	9/4	0点	6/20	

※調査面積の内、()内の数字は調査対象面積。

行為が増加傾向にあることが伺える。

以下に調査の内容と成果を記述する。

1. 清明台遺跡(2006個人住宅地点)

A. 概要

所在地 信濃町大字野尻字高山1197-363
 原因 個人住宅建設
 調査方法 試掘調査・本調査
 調査面積 23.5㎡
 調査期間 平成18年9月20日～9月29日
 出土遺物点数 463点

B. 遺跡の環境と調査に至る経緯

清明台遺跡は野尻湖の西側約1.5kmの台地上に位置する(図2)。台地の東側には池尻川低地(西たんぼ)が広がり、東側には北へ流下する池尻川が流れる。川との比高は約25mである。ここに清明台という別荘地が造成されており、今回その一角に住宅建設が計画された。この地域では過去に野尻湖発掘調査団による地質調査などで旧石器時代の遺物が採集されている(野尻湖人類考古グループ 1994)。住宅建設が計画された場所は北へ緩やかに上る傾斜地の途中にあたり、西側は池尻川に向かう崖状の地形となっている。ここには以前に建物があったということから、遺跡がどのように残されているかを確認するために試掘調査を実施した。その結果、試掘調査のすべてのトレンチから石器が出土したために本調査が必要と判断し、事業主側と再度協議をおこなって了解を得た。

C. 調査の方法

試掘調査は9月20日と22日に実施した。建物の基礎工事の範囲の四隅に1.5m×0.8mのトレンチを設定し、表土から手掘りによっておこなった。遺物が出土したために本調査が必要になり、事業主側と協議した結果、引き続き本調査をおこなうことになったため、9月25日から29日までの5日間で実施した。試掘トレンチで遺物が多数出土した北西コーナーのトレンチを中心に、主に西側で調査範囲を拡張した(図3)。

D. 調査の結果

a. 層序

信濃町の台地上の遺跡で見られる層序がここでも確認することができた(図4)。表土(I層)の下には「柏原黒色火山灰層」と呼ばれる黒ボク土(II層)がある。IV層は明褐色土で、III層はII層とIV層が混ざり合った漸

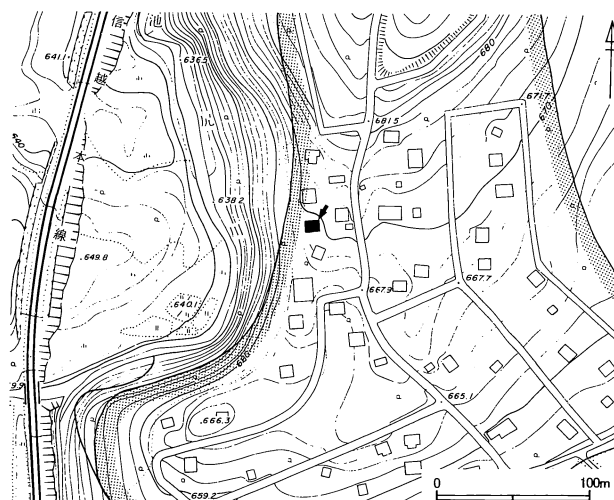


図2 清明台遺跡の範囲と調査地の位置

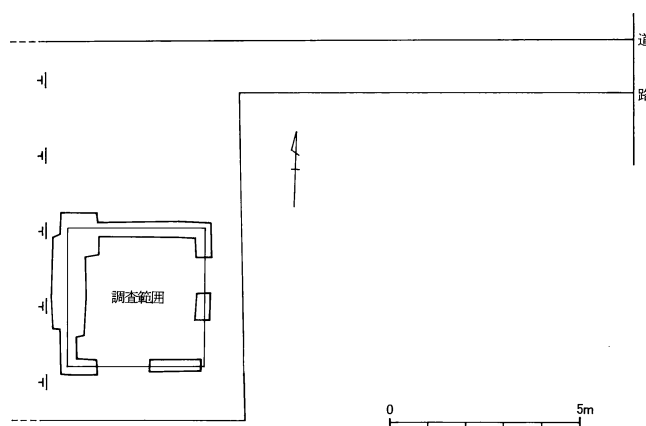


図3 清明台遺跡の調査範囲

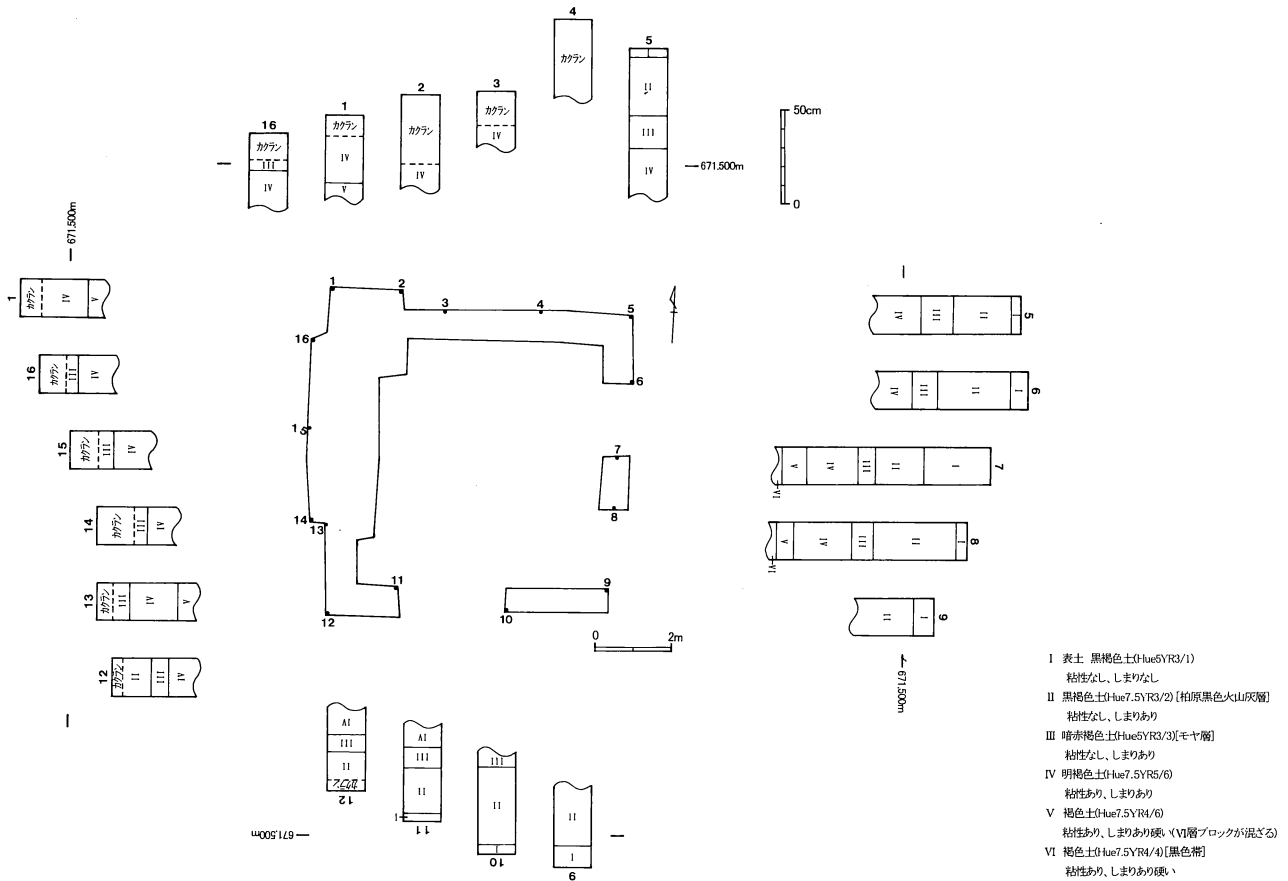


図4 清明台遺跡の土層

表2 層準別石器の出土点数

層位	I層	II層		III層			IV層			V層		カクラン
出土点数と割合	2 (1%以下)	7 (2%)		40 (11%)			294 (79%)			4 (1%)		27 (7%)
地層中の位置	中	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中
点数	2	4	1	2	3	11	26	42	197	55	2	2

表3 石材別石器の出土点数

石材名	An		Ob		Tu		Ge		Ch		Ag	
点数	226	60.9%	42	11.3%	38	10.2%	30	8.1%	29	7.8%	6	1.6%
重量(g)	1248.4	50.8%	92.51	3.8%	803.92	32.7%	97.03	3.9%	208.42	8.5%	8.77	0.4%
1点の平均重量	5.52		2.20		21.16		3.23		7.19		1.46	

移層（「モヤ」と呼ばれている）となっている。VI層は褐色土で「黒色帯」と呼ばれており、V層はIV層とVI層が混在した範囲である。このV層にAT（始良 Tn 火山灰で、野尻湖周辺では「ヌカ I」火山灰と呼ばれている）が含まれることが野尻湖発掘調査団により確認されている。遺物はI層からV層まで出土しているが、石器の79%、礫の97%がIV層から出土しており（表2、表8）、この地点の生活面はIV層の中にあっと思われる。主な遺物の地層中の位置を図11に示したが、IV層の中でも中央部分にもっとも遺物が集中していることがわかる。

b. 遺物の分布と遺構

今回の調査地では西側全体と北東コーナーで遺物の集中が見られたが、調査地の中央部は以前の建物によって攪乱を受けており、そこが遺物分布の空白となっているため、両者の関係は不明である。遺物は礫群の周囲に製品（ツール）がまとまっているように見られる（図5）。石材別の遺物の分布は図6～10に示した。下呂石にややまとまりが見られるものの、どの石材も全体に広がって分布していることがわかる。石材別では無斑晶質安山岩が点数、重量ともに全体の半数以上を占めている（表3）。凝灰岩の点数は少ないが、大形の遺物が多く、重量では2番目に重い。数量では黒曜石が2番目に多いが、重量では3.8%しかない。これは下呂石と拮抗する。この地域の他の遺跡に比べて下呂石の点数が多いことも特徴として挙げられる。なお、母岩別の分類は図16にあるように、石材の色を調べるとともに、それぞれの石材の特徴を縦軸と横軸に取り、それによってグループ分けをおこなった。肉眼レベルの分類のため、同じグループのものが同一母岩という確証は得られていないが、近い石材をまとめることができたと思われる。分類結果は表6～7の母岩の項目に示した。

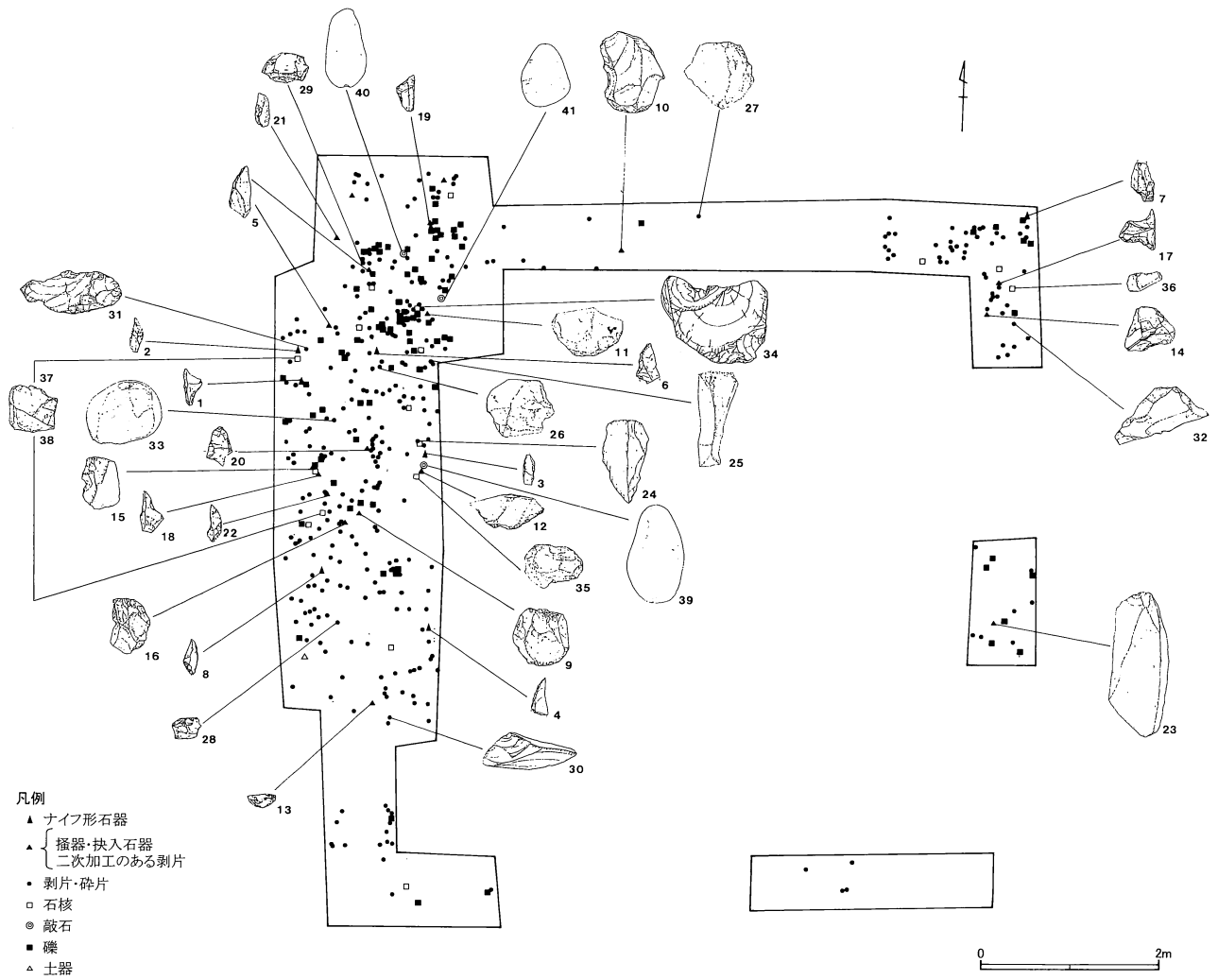


図5 清明台遺跡の遺物の分布（全体）

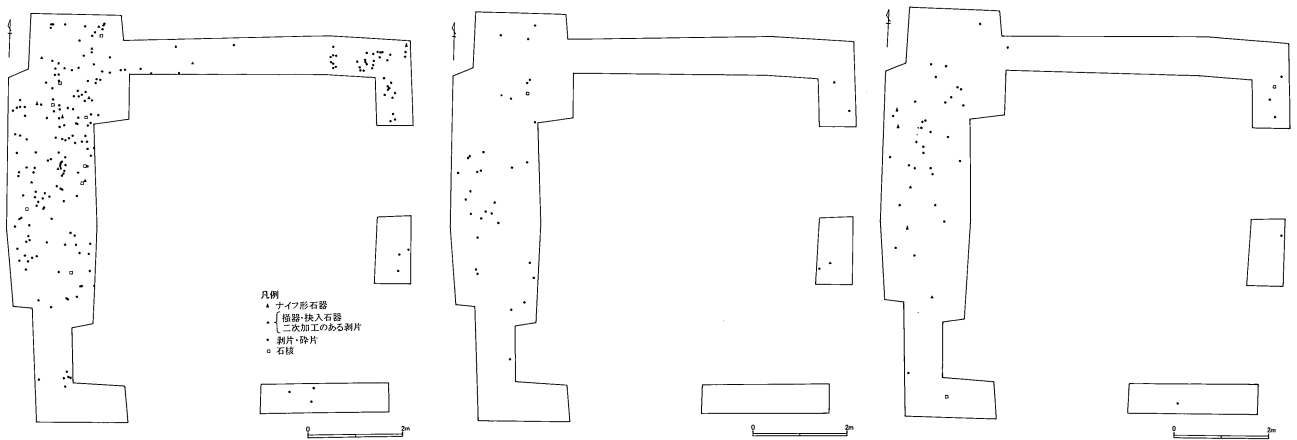


図6 石材別の遺物分布（無斑晶質安山岩）
（凡例は図6～10に共通する）

図7 石材別の遺物分布（凝灰岩）

図8 石材別の遺物分布（黒曜石）

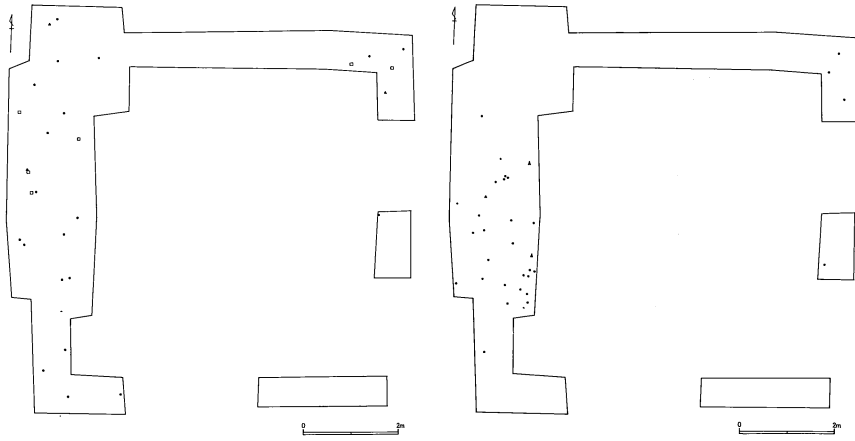


図9 石材別の遺物分布 (チャート)

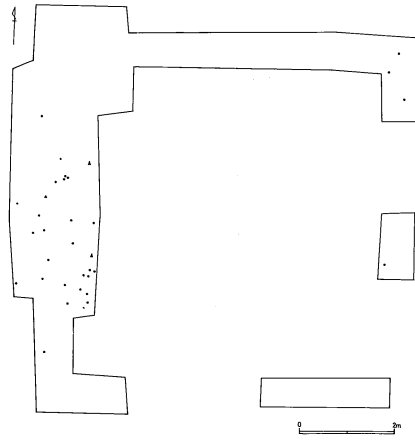


図10 石材別の遺物分布 (下呂石)

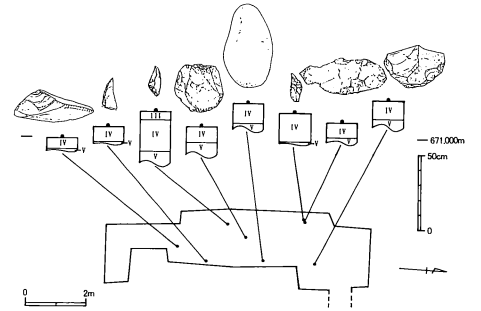


図11 主な遺物の地層中の出土位置

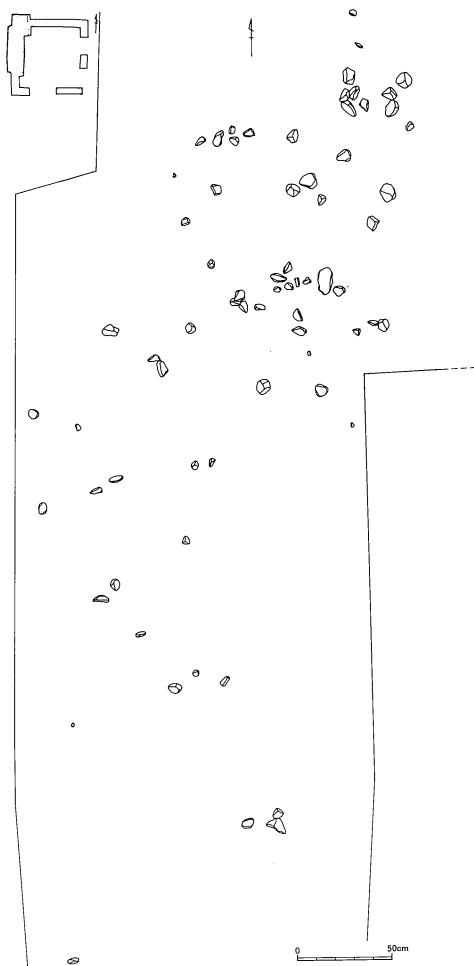


図12 礫の分布

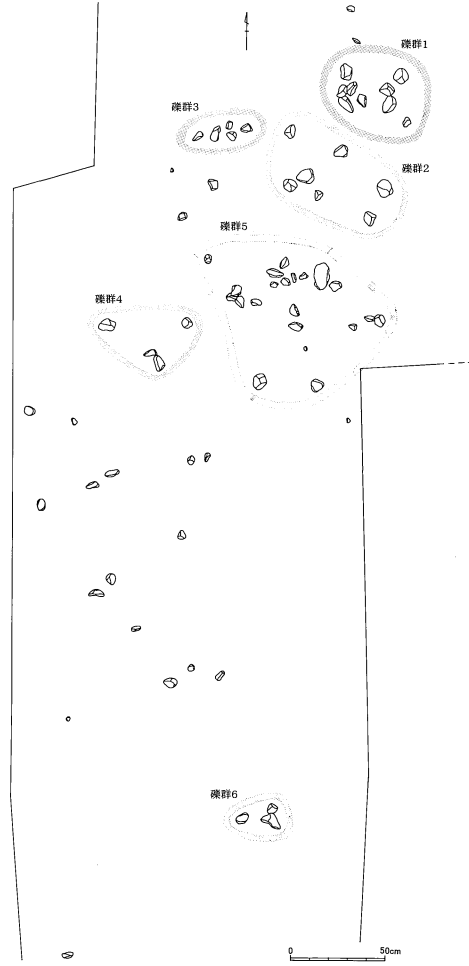


図13 礫群の分布

表4 礫に関する分析結果

長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	割れの割 合(%)	焼け (3段階)	割れ あり○ なし×		焼け あり○ なし×		自然面に焼け あり○ なし×		割れ面に焼け あり○ なし×		平面形 (長短)		平面形 (角丸)				
						数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%			
平均値	平均値	平均値	平均値	平均値	平均値															
7.3	5.2	3.7	199	59	1.9	○	81	92	○	81	92	○	80	99	○	51	69			
						×	7	8	×	7	8	×	1	1	×	23	31			
															長	26	69			
														短	62	31	角			
																	丸	63	72	
																		丸	25	28

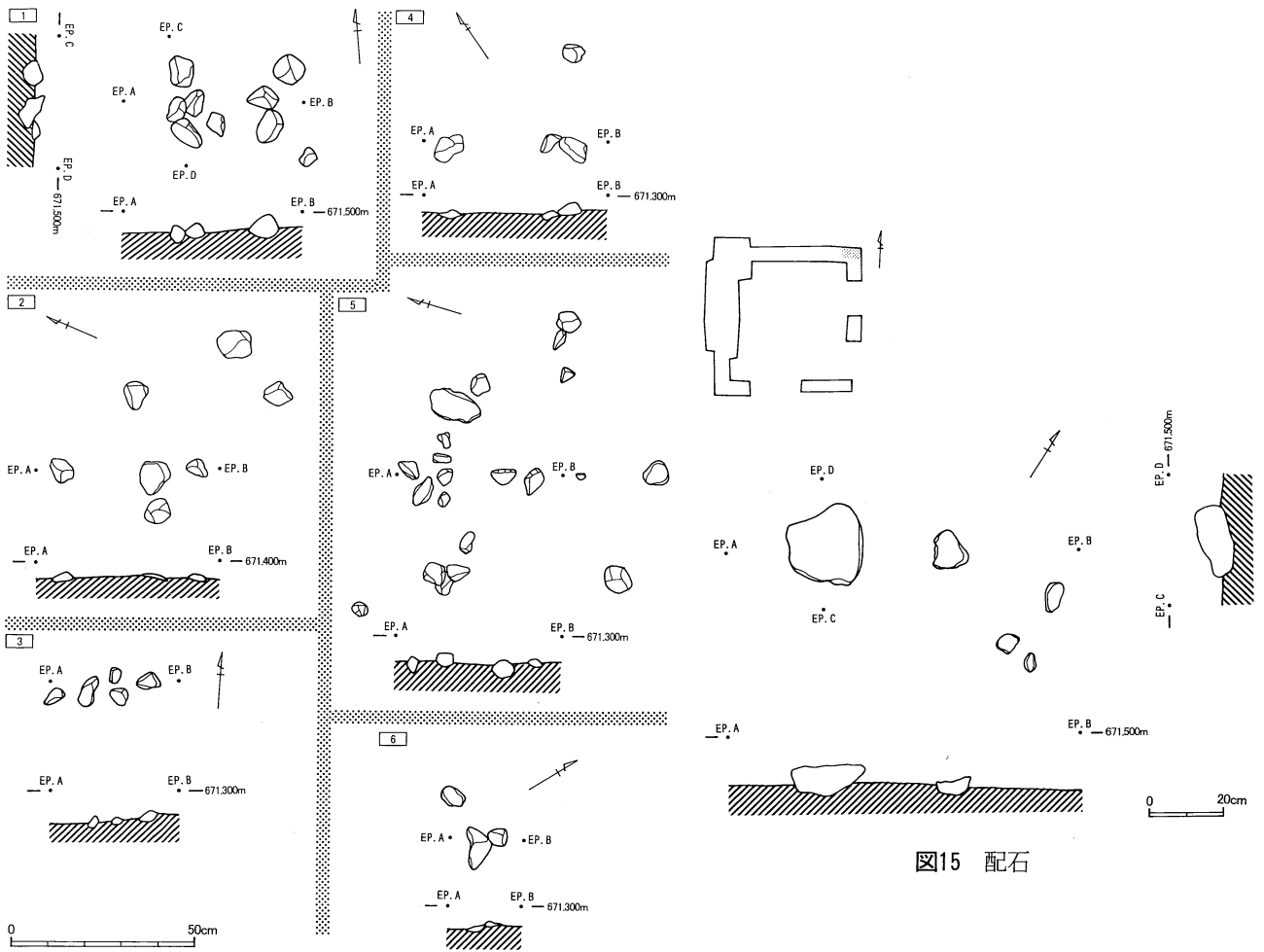
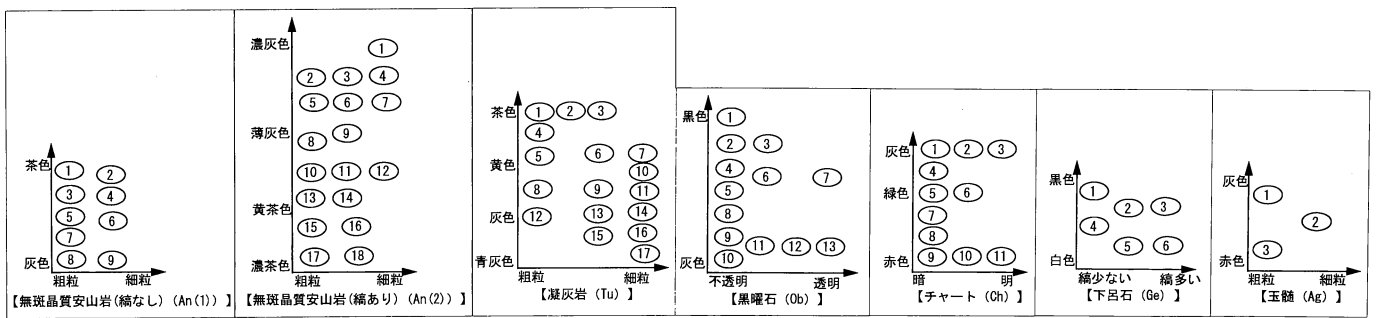


図14 礫群

図15 配石



石材名	記号	番号																	
無斑晶質安山岩 (結なし)	An(1)	オリブ黒灰 (5Y 5/1)	灰 (N 4/)	灰 (GY 5/1)	灰 (GY 6/1)	灰 (7.5Y 5/1)	灰 (GY 5/1)	灰 (GY 6/1)	にぶい黄 (2.5Y 6/4)	にぶい黄 (2.5Y 6/3)	にぶい黄 (2.5Y 6/4)	黄褐 (2.5Y 5/4)	にぶい黄 (2.5Y 6/4)	灰 (GY 4/1)	灰 (GY 5/1)	暗灰黄 (2.5Y 5/2)	黄褐 (2.5Y 5/3)		
無斑晶質安山岩 (結有)	An(2)	明黄褐 (2.5Y 6/6)	にぶい黄 (2.5Y 6/4)	明黄褐 (2.5Y 6/6)	黄褐 (2.5Y 5/4)	にぶい黄 (2.5Y 6/3)	黄褐 (2.5Y 6/3)	にぶい黄 (7.5Y 5/1)	灰 (7.5Y 5/2)	灰 (GY 5/1)	灰白 (GY 7/2)	灰白 (GY 8/2)	灰白 (GY 7/2)	灰 (GY 6/1)	灰白 (7.5Y 7/1)	灰白 (7.5Y 7/2)	灰オリブ (7.5Y 6/2)	灰 (7.5Y 6/1)	
凝灰岩	Tu	灰黄 (2.5Y 6/2)	にぶい黄 (2.5Y 6/3)	黒褐 (10YR 3/1)	にぶい黄 (10YR 7/4)	残黄 (2.5Y 7/4)	残黄 (5Y 7/3)	灰白 (GY 8/2)	灰白 (GY 7/2)	灰白 (GY 7/2)	灰白 (GY 8/2)	黄灰 (2.5Y 5/1)	黄灰 (2.5Y 4/1)	黒褐 (2.5Y 3/1)	黒 (10YR 2/1)				
黒曜石	Ob	黒 (N 1.5/)	黒 (N 2/)	黒 (N 1.5/)	暗灰 (N 3/)	黒 (7.5YR 1.7/1)	黒褐 (2.5Y 3/1)	黒 (10YR 1.7/1)	黒 (GY 2/1)	オリブ黒 (GY 3/2)	黄灰 (2.5Y 5/1)	黄灰 (2.5Y 4/1)	黒褐 (2.5Y 3/1)	黒 (10YR 2/1)					
下呂石	Ge	灰 (N 5/)	灰 (N 4/)	灰 (N 5/)	灰 (N 6/)	灰 (7.5Y 6/1)	緑灰 (2.5Y 6/1)	緑灰 (10G 5/1)	緑灰 (10G 5/1)	褐色 (7.5YR 4/3)	暗赤褐 (10R 3/3)	暗赤 (7.5R 3/4)	赤褐 (10R 4/4)						
チャート	Ch	暗灰 (N 3/)	灰 (N 4/)	灰 (N 5/)	黄灰 (2.5Y 4/1)	暗オリブ (2.5Y 4/1)	暗オリブ (2.5Y 4/1)	暗オリブ (2.5Y 4/1)	暗オリブ (2.5Y 4/1)	暗オリブ (2.5Y 4/1)	暗オリブ (2.5Y 4/1)	暗オリブ (2.5Y 4/1)	暗オリブ (2.5Y 4/1)						
玉髓	Ag	灰 (N 5/)	灰 (7.5Y 5/1)	灰 (5Y 5/1)															

図16 母岩別分類の方法

礫の分布は図12に示した。石質は安山岩で、在地の礫であり、鳥居川等で採取できる。ほぼ同層準から出土していることから、ほぼ同時期のものと判断した。これを視覚的にグループ分けし、6つの礫群として捉えた(図13)。また、一辺が20cm程ある大きな礫が出土したため、その周辺の礫を含め配石遺構とした(図15)。出土したすべての礫のデータは表8に示し、それを集計して平均値等を表4に示した。大きさは長軸を上下にして置いて長さとし、それに対する幅、厚さを計測した。その平均は大人のこぶし大ほどであることがわかる。割れの割合とは礫の外形の内、何割程度割れているかという値で、平均で約6割となっている。焼けはその程度を目で見た感覚で3段階に分け、礫表面の焼け色(橙褐色など)が濃いものを3、薄いものを1とし、中間のものを2とした。礫は全体の92%が割れており、同様に92%が焼けている。割れた面が焼けている礫が59%あることから、礫を繰り返し焼いて使用していることが伺える。平面形で長くて角張ったものが多い傾向も、割れた礫が多いためと思われる。配石の礫も焼けており、礫群、配石はともに火にかけられていたことは明らかで、調理等に用いられていたことが想定できる。

c. 出土遺物

遺物は縄文土器2点を除いて旧石器時代のものであり、主な遺物を図17~20(番号の下に器種、石材、出土層位、遺物番号を記した)に示し、その特徴を表5に記載した。石器の部位の呼称や計測部位については図21に示した。石材名と石材の略号は図16を参照されたい。剥片石器の石器組成はナイフ形石器、搔器、抉入石器で、ほかに敲石が3点出土した。石核と剥片から剥片剥離技術を推定すると、打面調整剥離はおこなわず、自然面や単剥離面を打面として110度前後の剥離角で、幅広の剥片を剥離していると思われる。中には翼状剥片に類似した横長剥片も見られるが(図19の30~32)、瀬戸内技法のような横長剥片を連続で剥離する技術で剥離されたものとは考えられず、先に述べた剥片剥離技術の中で、こういった剥片も剥離されたものと考えられる。ナイフ形石器の二次加工は急角度のものが多く、調整角が90度前後を示すものが多い。そのため石器が厚いという印象をもつ。搔器は素材の末端に弧を描くように刃部がつくられていて、素材の剥片の打面側が折れているものが多い。これは折れたものか、意図的に折られたものなのかは不明である。縄文土器は縄文早期の沈線文系の土器と思われる(図22)。

E. まとめ

今回の調査地点では23.5㎡という狭い範囲の調査でありながら、463点もの遺物を得ることができ、礫群等の遺構とともに、旧石器時代の石器群を検出することができた。遺物のほとんどが旧石器時代のほぼ同一時期のものと考えられる。

今回の出土層位はIV層の中央付近からやや下位にかけてである。野尻湖発掘調査団による地層区分では上部野尻ローム層II下部にあたり、長野県埋蔵文化財センターの層序区分のIV層下部にあたる。この層準は広域火山灰のAT(始良 Tn 火山灰)降灰後のそれほど時間の経っていない時期にあたる。文化層では野尻湖人類考古グループによる区分の上II下部文化層(野尻湖人類考古グループ 1994)と、長野県埋蔵文化財センターが調査した遺跡から設定された第三期(谷、大竹 2003)にあたるものと思われ、南関東ではV~IV層下部に対比される。

今回の調査地点の石器群の特徴をまとめると以下ようになる。

- ①出土層位はIV層中部~下部。
- ②石刃は組成せず、石刃技法は見られない。
- ③剥片剥離は打面調整をおこなわず、自然面や単剥離面を加撃して、幅広で横長の剥片を剥離する。
- ④剥片石器の石器組成はナイフ形石器、搔器、抉入石器である。
- ⑤ナイフ形石器は概して小型で、切り出し形を含む二側縁加工と一側縁加工である。調整加工は90度に近い急角度になっているため、厚みがある印象である。
- ⑥搔器は素材の末端部に弧状の刃部を設ける。
- ⑦礫群が伴う。

野尻湖遺跡群の中で同時期の遺跡と思われるのは、出土層位と石器群の様相から、照月台遺跡(野尻湖人類考古グループ 1987)、伊勢見山遺跡(小林達雄 1982)、大平B遺跡(長野県埋蔵文化財センター 2000)、日向林B遺跡(長野県埋蔵文化財センター 2000)、七ツ栗遺跡(長野県埋蔵文化財センター 2000)である。この中では大平B遺跡の大平I石器文化がもっとも近いものと思われる。日向林B遺跡の日向林III石器文化、七ツ栗遺跡の七ツ栗I石器文化は石刃状の縦長剥片の剥片剥離が見られることなどから、これらは今回調査した清明台の石器群よりもやや新しい時期に位置づけたい。

今回の調査地で遺物が出土した層準は野尻湖遺跡群の中でも遺跡数の少ない時期にあたる。今回この時期の資料を比較的良好な状況の中で捉えることができたことは、今後の研究に寄与するところが大きいと思われる。

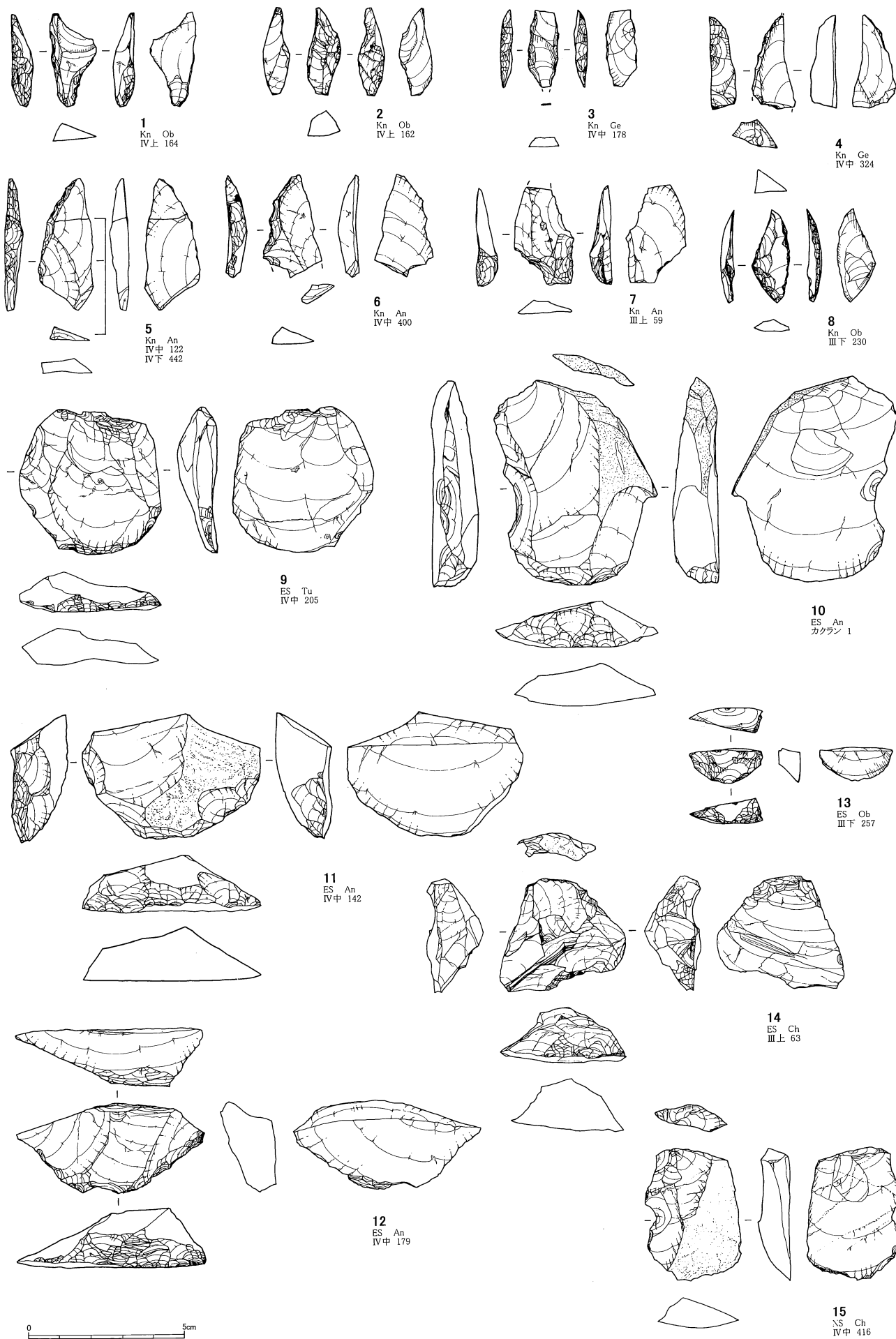


図17 主な出土遺物（1）（ナイフ形石器、搔器、挟入石器）

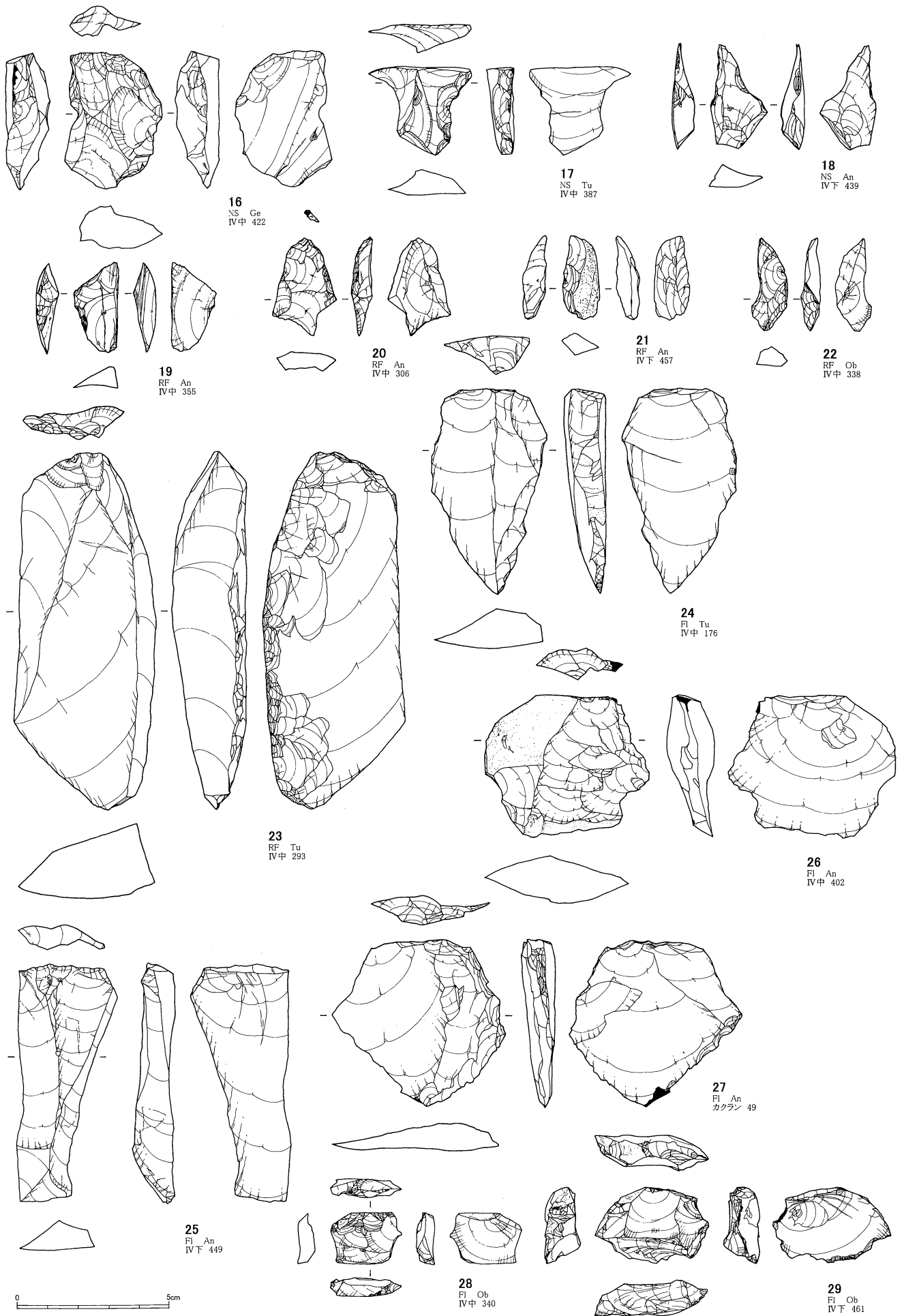


図18 主な出土遺物（2）（挟入石器、二次加工のある剥片、剥片）

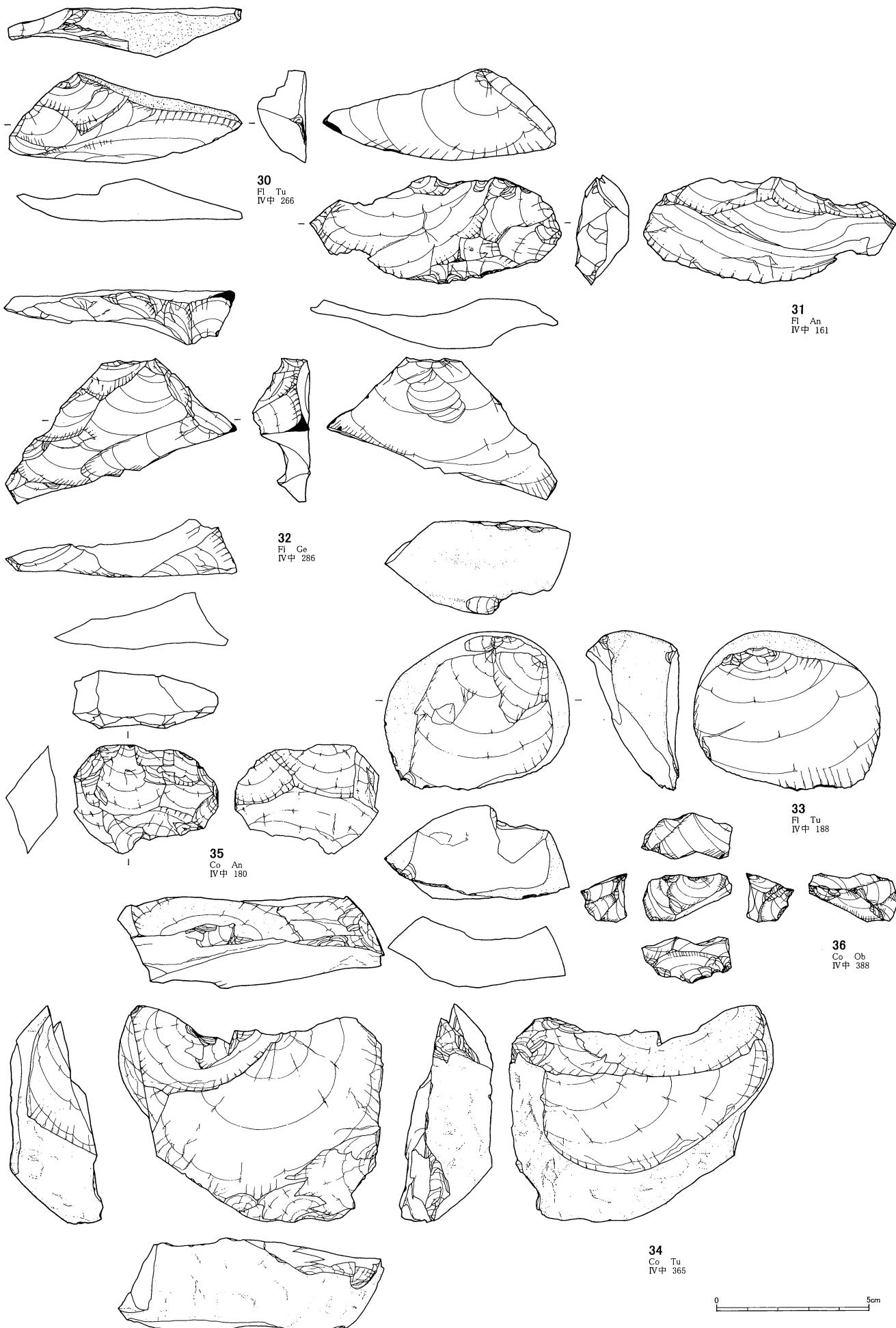


图19 主な出土遺物（3）（剥片、石核）

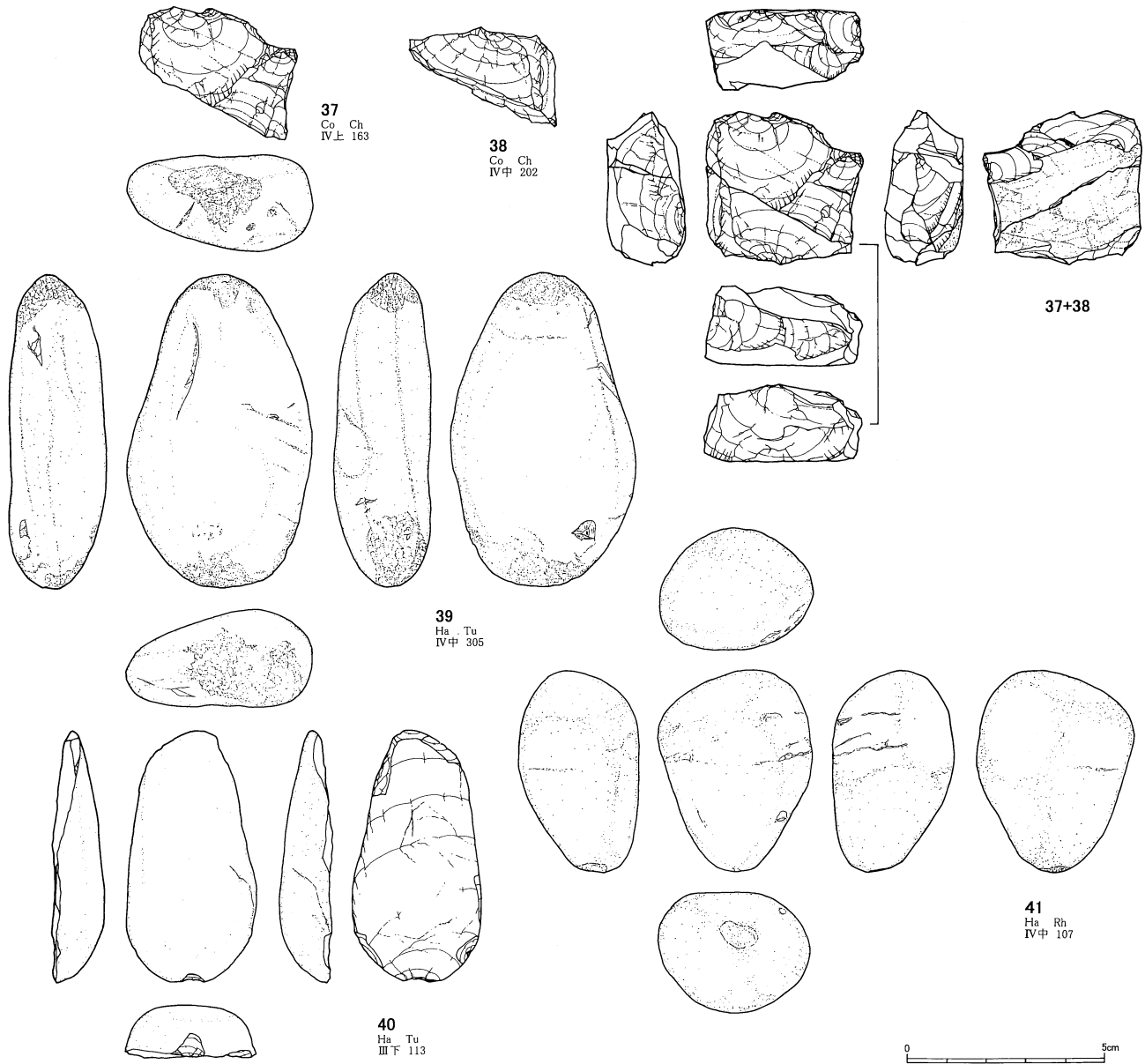


図20 主な出土遺物（4）（石核、敲石）

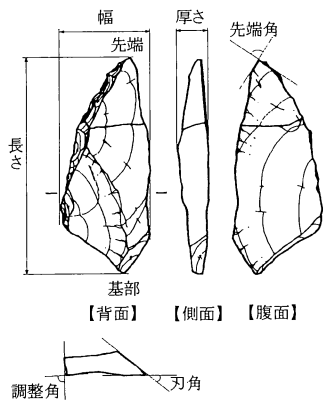


図21 石器の計測方法

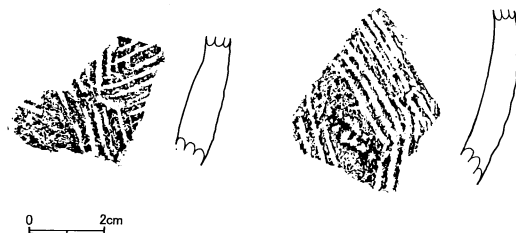


図22 清明台遺跡出土の縄文土器

表5 主な出土遺物の観察表

図番号	遺物番号	遺物名	石材	地層	層位中の位置	特徴
1	164	ナイフ形石器	Ob	IV	上	二側縁加工のナイフ形石器。剥片を素材とし、その打面側を基部とする。先端角46度。調整角は左側縁が60~76度、右側縁が50~60度。刃角は35度前後。
2	162	ナイフ形石器	Ob	IV	上	一側縁加工のナイフ形石器。厚手で幅広の剥片を素材とし、その打面側に二次加工を施す。先端角は28度。右側縁の調整角は80~90度。刃角は70度前後。
3	178	ナイフ形石器	Ge	IV	中	二側縁加工のナイフ形石器で台形状を呈する。素材を横位に用い、調整角は両側縁ともに70~80度。刃角は45度前後。
4	324	ナイフ形石器	Ge	IV	中	一側縁加工のナイフ形石器。基部側が欠損する。先端角は38度。左側縁の調整角は80度前後。刃角は50~55度。
5	122	ナイフ形石器	An	IV	中	一側縁加工のナイフ形石器。幅広の剥片の末端部に刃部とし、打面側に急角度の二次加工を施す。先端角は82度。左側縁の調整角は70~95度。刃角は25度前後。
442	ナイフ形石器	An	IV	下		
6	400	ナイフ形石器	An	IV	中	一側縁加工のナイフ形石器。先端角は80度。左側縁の調整角は60度前後。刃角は30~40度。
7	59	ナイフ形石器	An	III	上	二側縁加工のナイフ形石器。基部の両側縁に加工があり、先端は欠損する。調整角は左側縁が70~75度、右側縁が70~80度。刃角は左側縁が40度前後、右側縁が25度前後。
8	230	ナイフ形石器	Ob	III	下	二側縁加工のナイフ形石器。幅広の剥片を横位に用いる。先端角は48度。調整角は両側縁ともに80度前後。刃角は35度前後。
9	205	掻器	Tu	IV	中	素材は複剥離面打面を残す幅広の剥片で、剥離角は143度。素材の末端部に刃部を設け、調整角は75~85度。
10	1	掻器	An	カクラン		素材は自然面打面を残す縦長剥片で、剥離角は106度。素材の末端部に弧状の刃部を設け、刃部の調整角は70~83度。
11	142	掻器	An	IV	中	素材の端部に刃部を設ける。素材の打面側は欠損する。刃部の調整角は中央から左側縁は鈍角で120度前後、右側は鋭角で65~70度。
12	179	掻器	An	IV	中	厚手の素材の打面側が欠損する。刃部の調整角は65~115度で、刃部の中央付近で鈍角となっている。ナイフ形石器の可能性もある。
13	257	掻器	Ob	III	下	厚手の素材の打面側が欠損する。先端角80度。左側縁の調整角は80~85度と急角度。刃角は40度前後。ナイフ形石器の可能性もある。
14	63	掻器	Ch	III	上	素材は自然面打面を残す厚手で幅広の剥片で、剥離角は93度。素材の末端部と右側縁に刃部を設ける。末端部の二次加工は挟入状で、調整角は75~85度。
15	416	挟入石器	Ch	IV	上	素材は複剥離面打面を残し、背面に自然面がある縦長の剥片で、剥離角は116度。左側縁に挟入部があり、調整角は58度。
16	422	挟入石器	Ge	IV	中	素材は単剥離面打面を残す縦長の剥片で、剥離角は107度。素材の背面には求心状の剥離あり。左側縁の挟入部の調整角は84度。右側縁に微細剥離痕がある。
17	387	挟入石器	Tu	IV	中	素材は末端が螺巻剥離の剥片で、打面側が欠損する。挟入部の調整角は60度。
18	439	挟入石器	An	IV	下	素材は複剥離面打面が残る幅広の剥片で、剥離角は124度。両側縁に二次加工が施され、調整角は左側縁が70度前後、右側縁が80度前後。右側縁に挟入部がある。ナイフ形石器に類似する。
19	355	二次加工のある剥片	An	IV	中	素材の打面側に急角度の二次加工が施されている。調整角は70度前後。ナイフ形石器に類似する。
20	306	二次加工のある剥片	An	IV	中	単剥離面打面が残る幅広の剥片の背面に、両側縁に二次加工が施されている。剥片の剥離角は122度。
21	457	二次加工のある剥片	An	IV	下	単剥離面打面が残る幅広の剥片の背面側に一側縁に二次加工が施され、ナイフ形石器状の形をつくる。剥離角は104度。
22	338	二次加工のある剥片	Ob	IV	中	単剥離面打面が残る幅広の剥片の背面に80~90度の急角度の二次加工が施されている。剥片の剥離角は126度。
23	293	二次加工のある剥片	Tu	IV	中	大型の縦長剥片の腹面の一側縁に平坦剥離と小剥離が連続して施されている。小型の幅広の剥片を剥離した石核の可能性もある。
24	176	剥片	Tu	IV	中	縦長の剥片。打面は自然面で剥離角は99度。
25	449	剥片	An	IV	下	縦長の剥片。単剥離面打面で剥離角は106度。背面に自然面あり。
26	402	剥片	An	IV	中	単剥離面打面が残る幅広の剥片で、剥離角は108度。背面に自然面あり。
27	49	剥片	An	カクラン		複剥離面打面を残す幅広の剥片で、剥離角は97度。腹面の縁辺の一部に微細剥離痕がある。
28	340	剥片	Ob	IV	中	複剥離面打面を残す幅広の剥片で、剥離角は121度。背面に平坦剥離が見られる。末端部の一部に掻器の刃部様の剥離痕があり、角度は107度前後。
29	461	剥片	Ob	IV	下	単剥離面打面が残る幅広の剥片で、剥離角は116度。側面に自然面あり。腹面の末端の一部に微細剥離痕あり。
30	266	剥片	Tu	IV	中	横長の剥片。単剥離面打面を残し、剥離角は118度。
31	161	剥片	An	IV	中	横長の剥片。複剥離面打面を残し、剥離角は136度。背面に横長の剥片の剥離痕が残る。末端の一部に微細剥離痕が見られる。
32	286	剥片	Ge	IV	中	横長の剥片。複剥離面打面を残し、剥離角は108度。背面には複数の縦長剥片の剥離痕が残る。
33	188	剥片	Tu	IV	中	自然面打面で剥離された幅広の剥片で、剥離角は125度。自然面から円礫を利用したことがわかる。末端部に微細剥離痕が残る。
34	365	石核	Tu	IV	中	幅広の剥片を剥離した石核。自然面が残り、母岩は円礫で、板状に分割されたものを石核としている。大型で幅広の剥片は平坦な剥離面を打面とし、剥離角は124度。小型の幅広の剥片は自然面を打面として、剥離角は94度。
35	180	石核	An	IV	中	小型で幅広の剥片を剥離した石核。平坦な剥離面を打面として、2種類の剥片を剥離し、剥離角は114度、124度。縁辺の一部に微細剥離痕がある。
36	388	石核	Ob	IV	中	小型で幅広の剥片を剥離した石核。平坦な剥離面を打面として、複数の剥片を剥離し、剥離角は118度、126度。縁片の一部に微細剥離痕がある。
37	163	石核	Ch	IV	上	幅広の剥片を剥離した石核。38と接合する。単剥離面を打面として剥離角101度で剥片を剥離。自然面あり。節理面に割れ、そこで接合する。
38	202	石核	Ch	IV	中	幅広の剥片を剥離した石核。37と接合する。節理面に割れ、そこで接合するが、剥片剥離は割れた後におこなわれている。平坦な節理面を打面とし、剥離角は110度。自然面あり。
39	305	敲石	Tu	IV	中	上下に敲打痕あり。
40	113	敲石	Tu	III	下	下端に敲打痕が残る。使用の衝撃で割れたものと思われる。
41	107	敲石	Rh	IV	中	下端の先端部のわずかな面積に敲打痕が残る。

2. 仲町遺跡

A. 概要

所在地 信濃町大字野尻字上ノ原540-4、544-1
 原因 個人住宅建設
 調査方法 工事立会
 調査面積 324㎡ (工事面積)
 調査期間 平成18年7月7日
 出土遺物点数 0点

B. 調査に至るまでの経緯と調査結果

住宅建設予定地の地形は北西方向へ下がる傾斜地であった(図23)。設計では斜面の低い部分に盛り土をし、盛り土の範囲内で基礎工事をおこない、現状の地表面は掘削しないことになっていたため、遺跡が保護されると判断し、基礎工事開始の日に工事立会をおこなって状況確認をした。

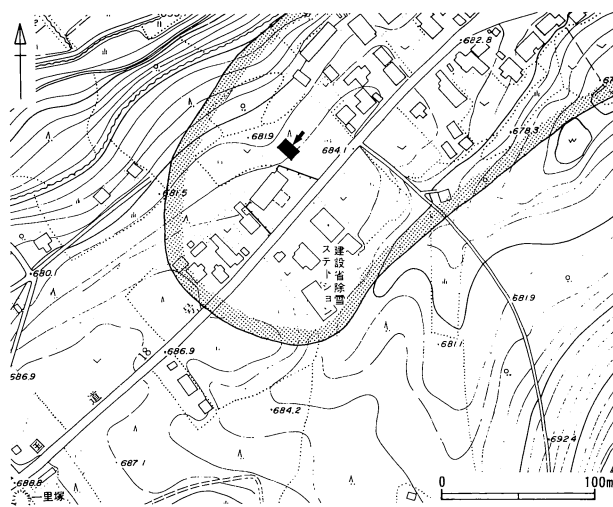


図23 仲町遺跡の範囲と調査地の位置

3. 海端遺跡 (2006倉庫建設地点)

A. 概要

所在地 信濃町大字野尻344-5
 原因 倉庫建設

調査方法 試掘調査
 調査面積 5.9㎡
 調査期間 平成18年11月7日
 出土遺物点数 10点

B. 調査に至る経緯と調査結果

海端遺跡内で倉庫の建設が計画されたため、当該地の遺跡の状況を確認するために試掘調査を実施した。道路よりも低い平坦な荒蕪地で、北側は畑地、南側は林地となっていた(図24)。建設予定地の4隅に1.5m×0.8mの試掘用のトレンチを設置して手掘りにより掘り下げて調査を実施した。数十年前にここに建物があったということもあり、東側のトレンチでは客土を確認した(図25)。北西のトレンチから土師器片が出土したためトレンチを拡張したが、遺物の分布範囲は広がらなかった(図26)。遺物は10点出土したが、いずれも幅2cm程度の小片で、遺構も確認できなかったことから、遺跡の縁辺部と思われる、本調査の必要はないと判断した。遺物は2点が縄文土器で、8点が土師器である。縄文土器にはRLの縄文が施されている(図27)。胎土には繊維痕が残ることなどから縄文時代早期に位置づけたい。土師器については時期を決める手がかりがないため、周囲の遺跡との関係から判断して、概ね平安時代に位置づけておくことにする。

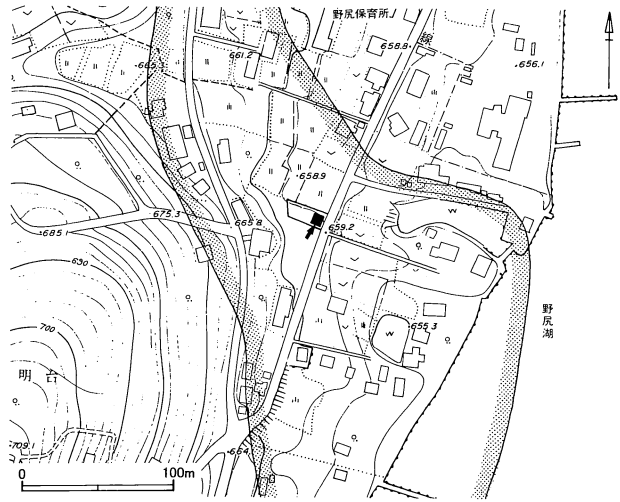


図24 海端遺跡の範囲と調査地の位置

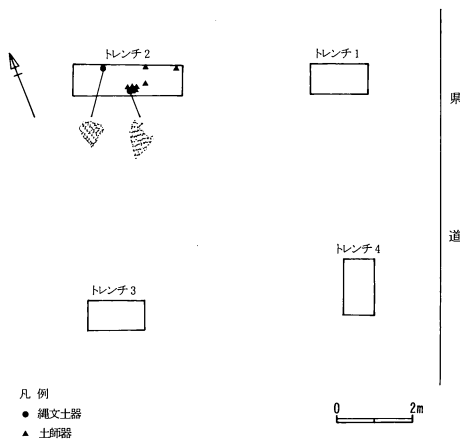
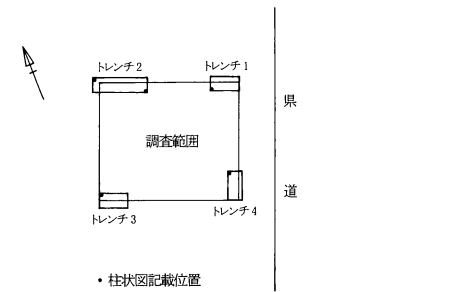


図26 海端遺跡の遺物の分布

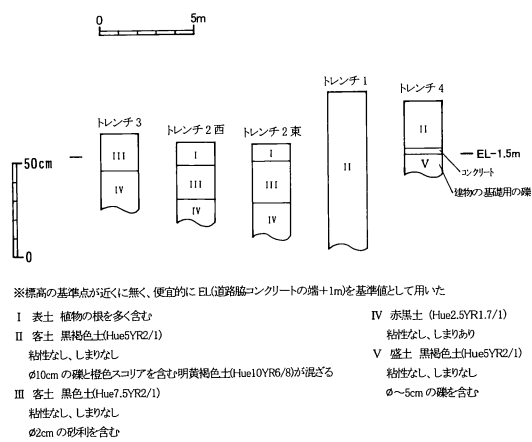


図25 海端遺跡の調査範囲と土層

4. 照月台遺跡 (2006個人住宅地点)

A. 概要

所在地 信濃町大字野尻字滝沢775-13
 原因 個人住宅建設
 調査方法 試掘調査
 調査面積 7.6㎡
 調査期間 平成18年4月24日～4月25日
 出土遺物点数 3点

B. 調査に至る経緯と調査結果

照月台遺跡内で個人住宅の建設が計画されたため、当該地の遺跡の状況を確認するために試掘調査を実施した。地形は北側へ下るやや角度のきつい斜面であった(図28)。ここに1.5m×0.8mの試掘トレンチを建設予定地の4隅に設置し、基礎工事で掘削する予定の地表下50cmまでを手掘りにより掘り下げた。南側に設定したトレンチ

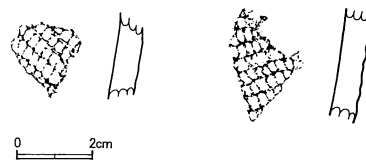


図27 海端遺跡出土の縄文土器

から遺物が出土したため、東西方向に拡張した（図29のトレンチ1）。しかし、遺物は3点のみで、遺物の分布範囲が広がらないことが確認できたため（図30）、本調査は必要ないと判断した。遺物は土師器1点、土器1点、礫1点で、小片のために時期の特定は難しく、土師器の存在から概ね平安時代としておきたい。

5. 上ノ原遺跡（2006研究所地点）

A. 概要

所在地	信濃町大字柏原183-2
原因	研究所建設
調査方法	確認調査・試掘調査
調査面積	研究所建物・38㎡ 研究所下水道管敷設・4.8㎡
調査期間	研究所建物・平成18年6月22日～6月23日 研究所下水道管敷設・平成18年11月7日～11月10日

出土遺物点数 0点

B. 調査に至る経緯と調査結果

鳥居川消防署信濃町分署の裏手に柏原グラウンドがある（図31）。これは1948年（昭和23年）に開校し、1989年（平成元年）に閉校となった北部高校の信濃町分校グラウンドとして使用されていたところである。ここにバイオマスの研究施設を建設することになったために遺跡の保護協議をおこなった。周辺では、今回の調査地の西側で、1990年（平成2年）に開墾が原因で発掘調査が実施され、旧石器時代細石器文化の石囲い炉が検出されるなど、国内でも希少な遺構が確認されている（中村 1992）。また、1996年（平成8年）にはグラウンド内に高速道路建設の舗装用プラントを建設するために確認調査が実施され、開発で掘削する深さ50cmまでは客土がされていることが確認された。今回の建物の設計では深さ115cmの掘削が予定されていたが、グラウンドの造成時に切り土と盛り土がど

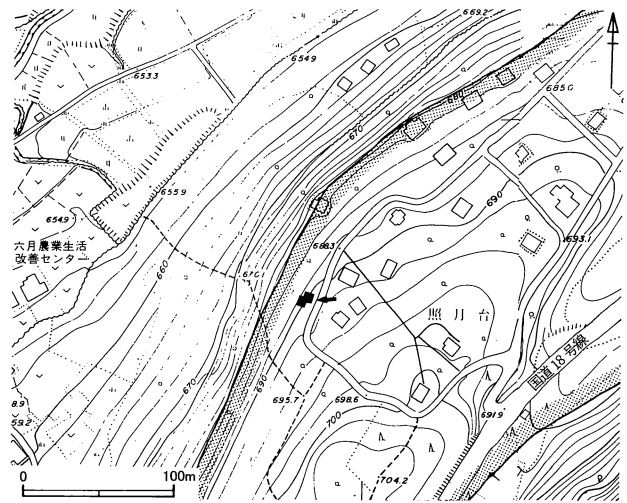


図28 照月台遺跡の範囲と調査地の位置

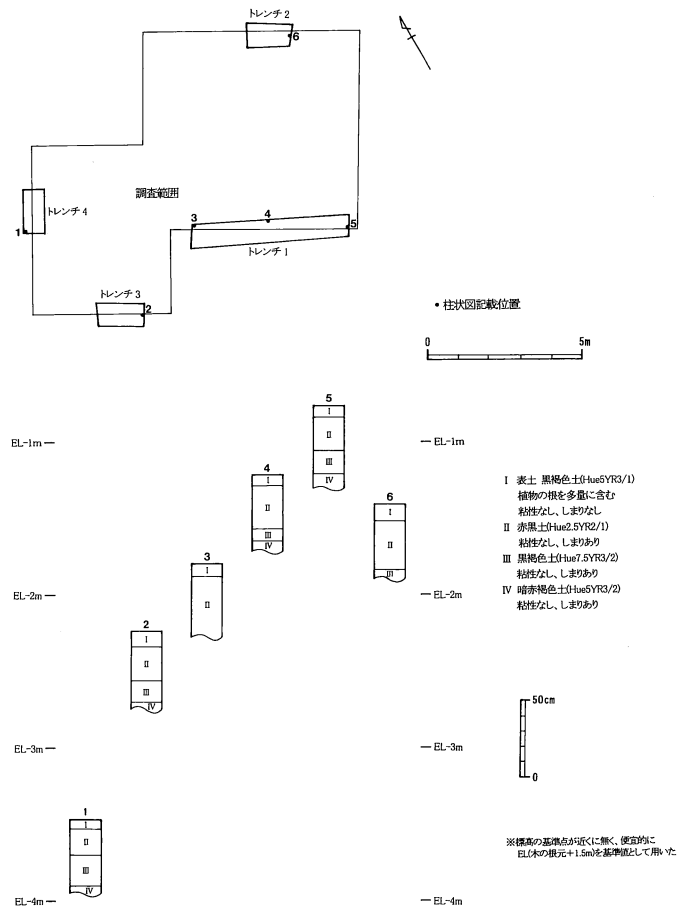


図29 照月台遺跡の調査範囲と土層

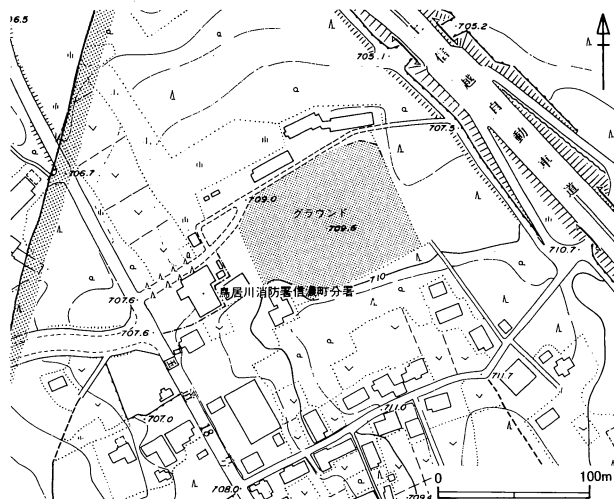


図31 上ノ原遺跡の範囲と調査地の位置

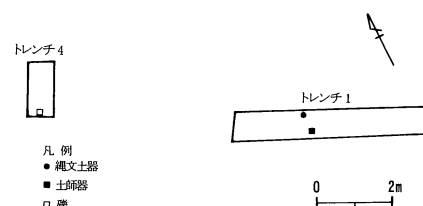


図30 照月台遺跡の遺物の分布

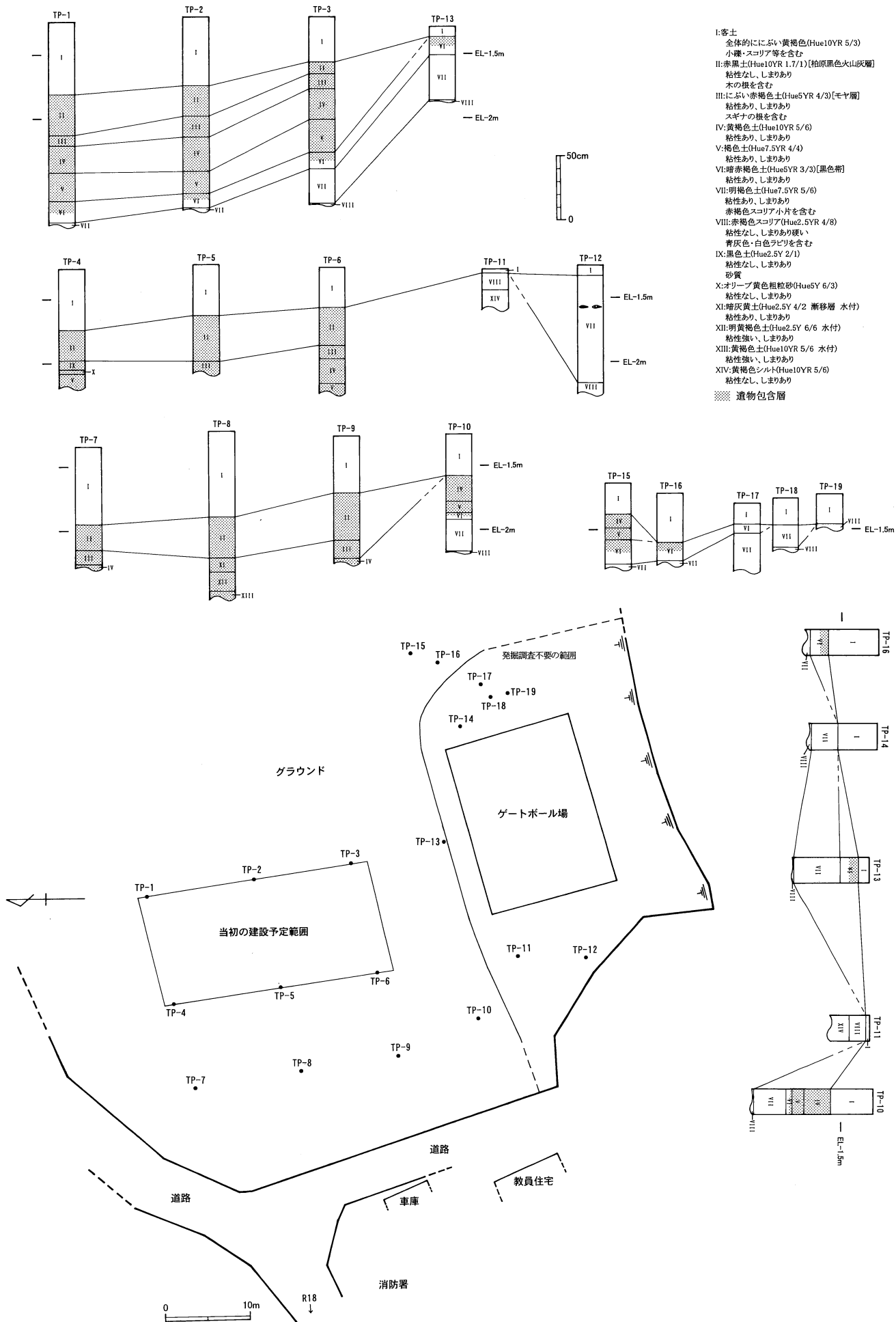


図32 上ノ原遺跡の調査位置と土層 (TP はテストピットの略)

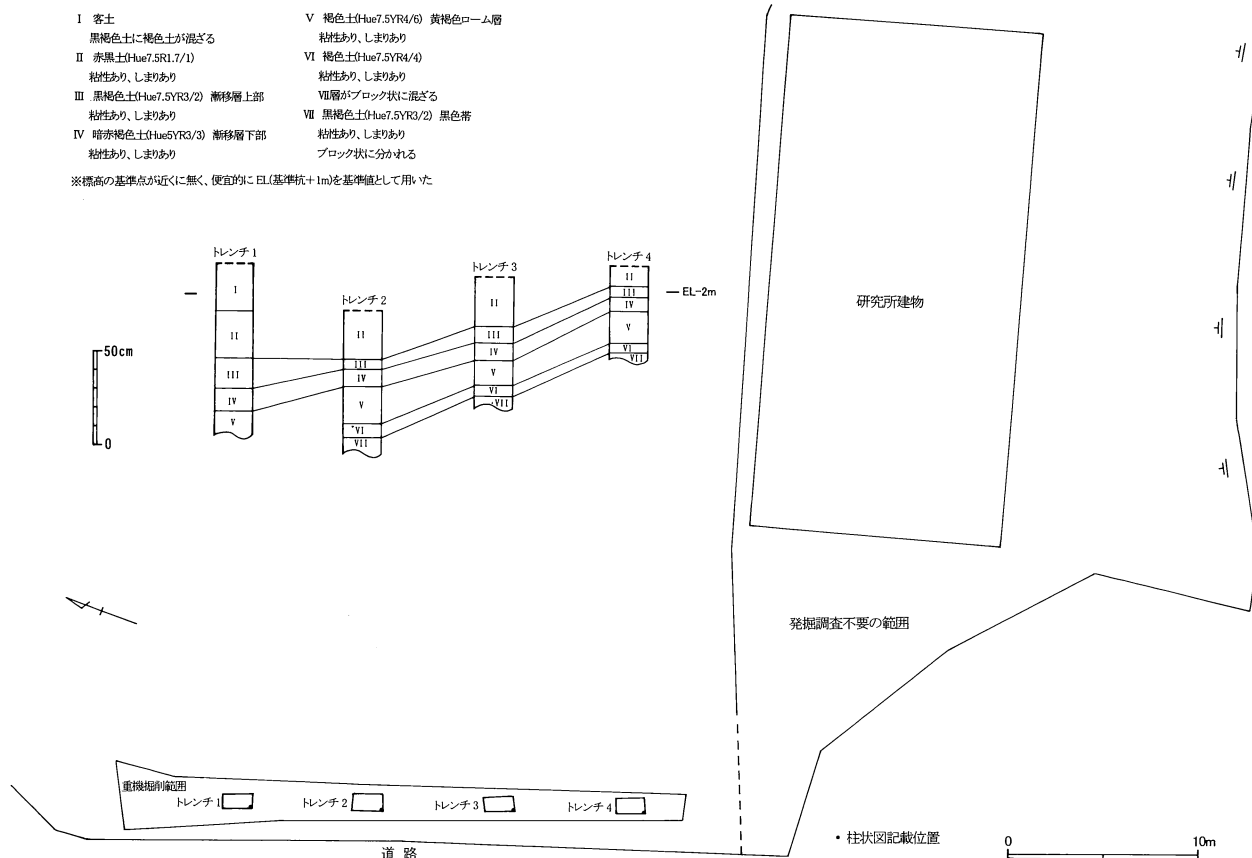


図33 上ノ原遺跡の下水道管敷設に伴う試掘調査の位置と土層

のような範囲でおこなわれていたかが不明であったため、遺跡が残されている可能性を含めて確認する必要がある。保護協議では、グラウンド内であれば建設地を移動できるため、調査の結果によって遺跡に影響の無い位置に建物を移動したいとの事業主の意向があったため、遺物を包含する可能性がある地層の有無を確認することを目的に調査をおこなった。バックホウによって、2.0m×1.0m程度のトレンチを19ヶ所（TP-1～19）掘削し、地層の記録をおこなった（図32）。その結果、当初の建設予定地は客土がなされており、その下に遺物を包含する可能性がある地層（IIからVI層上部までで、図32の柱状図で網かけの部分）が残されていることを確認した。また、TP-11、TP-14よりも南側はグラウンド造成時の削平により、IIからVI層上部は残されていないことが確認できた。このことを事業主へ伝えたところ、ゲートボール場として使われていたあたりへ建設するように計画変更がなされた。そのため、本調査は実施しないことにした。

ただし、下水道管の敷設については遺跡を破壊する可能性があったために、事前に試掘調査を実施した。下水道管敷設予定の範囲をバックホウで客土を取り除いた後、1.5m×0.8mのトレンチを4ヶ所設定して手掘りをおこなった（図33）。いずれのトレンチからも遺構、遺物は確認できなかったことから、本調査は必要ないと判断し、調査を終了した。

6. 東裏遺跡

A. 概要

所在地 信濃町大字柏原字東裏334-2
 原因 個人住宅建設
 調査方法 工事立会
 調査面積 311㎡（工事面積）
 調査期間 平成18年6月30日
 出土遺物点数 0点

B. 調査に至る経緯と調査結果

東裏遺跡内で個人住宅の建設が計画されたが、既存の建物を解体した後、ほぼ同じ位置に建設する計画であった。既存の建物の基礎工事をおこなった際とこれを撤去

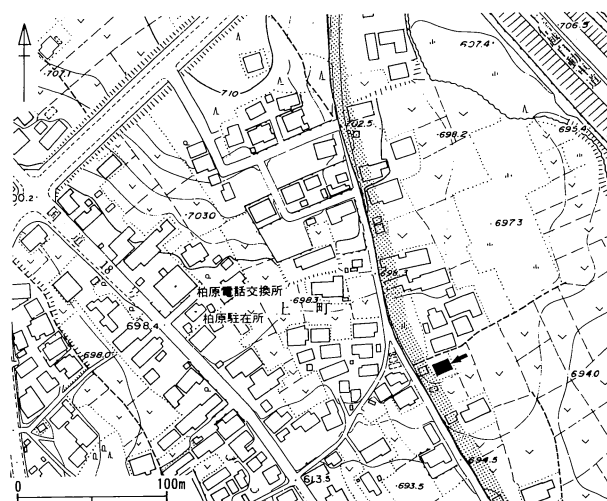


図34 東裏遺跡の範囲と調査地の位置

する際に大きく改変され、遺跡が残されていない可能性が高かったため、工事立会とし、基礎工事の掘削時に状況確認をおこなった(図34)。

7. 野尻湖団地遺跡

A. 概要

所在地 信濃町大字柏原字小丸山2470-17
 原因 個人住宅建設
 調査方法 工事立会
 調査面積 325㎡(工事面積)
 調査期間 平成18年7月5日
 出土遺物点数 0点

B. 調査に至る経緯と調査結果

野尻湖団地遺跡内で個人住宅の建設が計画されたが、既存の建物を解体した後、ほぼ同じ位置に建設する計画であった。既存の建物の基礎工事をおこなった際とこれを撤去する際に大きく改変され、遺跡が残されていない可能性が高かったため、工事立会とし、基礎工事の掘削時に状況確認をおこなった(図35)。

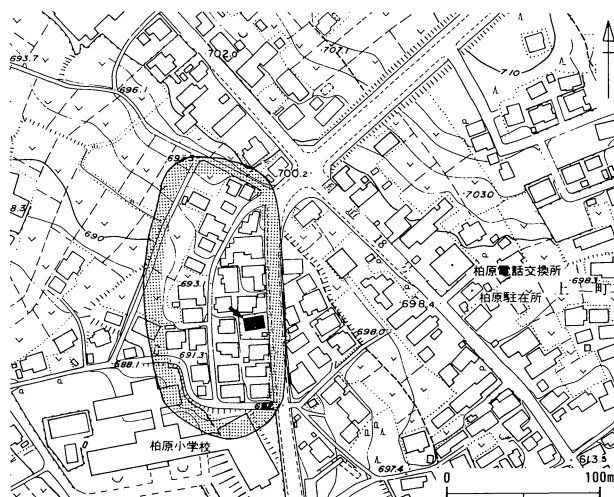


図35 野尻湖団地遺跡の範囲と調査地の位置

8. 東裏遺跡(2006個人住宅地点)

A. 概要

所在地 信濃町大字柏原466-27
 原因 個人住宅建設
 調査方法 試掘調査
 調査面積 7.2㎡
 調査期間 平成18年9月20日
 出土遺物点数 0点

B. 調査に至る経緯と調査結果

東裏遺跡内で個人住宅の建設が計画されたため、当該地の遺跡の状況を確認するために試掘調査を実施した。地形はやや東側を下る緩斜面であった(図36)。基礎工事の範囲に1.5m×0.8mの試掘トレンチを6ヶ所設置し、手掘りをおこなった結果、図37のトレンチ2、3、5、6ではⅢ層が客土であり、埋め立てられていることがわかった。土地の人からも埋め立てて造成された場所との話を聞くことができた。トレンチ1、4には本来の地層が残されていたが、遺構・遺物は確認できなかった。こうしたことから本調査は必要ないと判断した。

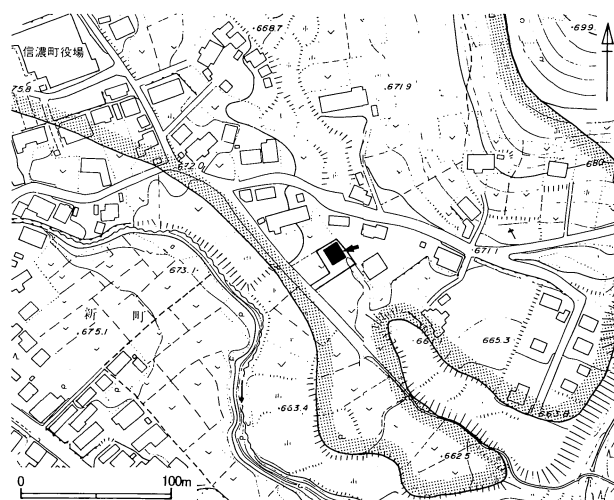


図36 東裏遺跡の範囲と調査地の位置

9. 柳原遺跡(2006信濃中学校地点)

A. 概要

所在地 信濃町大字古間字柳原491-1
 原因 統合小学校建設
 調査方法 確認調査
 調査面積 97.6㎡
 調査期間 平成18年11月22日～11月27日
 出土遺物点数 11点

B. 調査に至る経緯と調査結果

信濃町で5校ある小学校を統合して1校にする方針

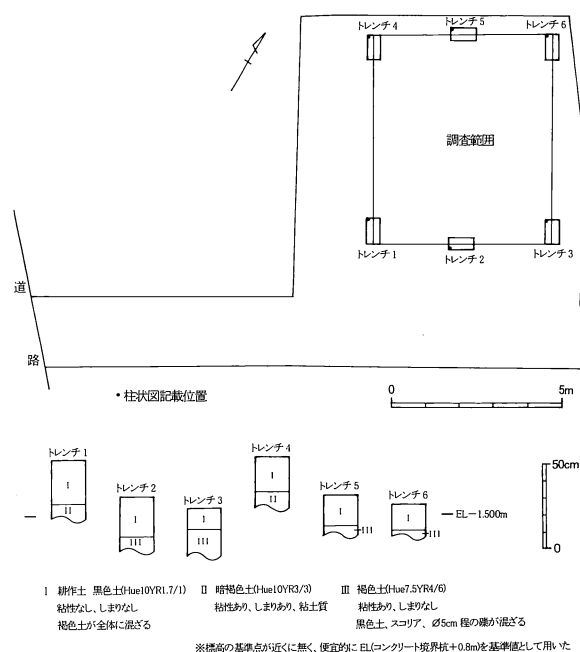


図37 東裏遺跡の調査範囲と土層

が出され、信濃町教育委員会総務教育係が統合校舎の建設予定地を選定している中で、信濃中学校のグラウンドがその有力な候補地となった。信濃中学校は旧北国街道古間宿を東に望む段丘上の高台に位置する。西側には一段低い面に水田が広がり、段丘面と水田との比高は約80mである（図38）。信濃中学校は町内の中学校を統合してできたもので、昭和43年（1968）に着工、昭和45年に竣工した。当時の工事記録によれば、この場所は西から東に下る緩斜面になっていて、概ね西側を切り土し、東側に盛り土をして造成されたことがわかった。ここでは工事の際に土器が出土したとの証言が得られていることと、平成元年に『信濃町のロマンを求めて』としてまとめられた信濃中学校3年5組の調査記録の中で、テニスコートから黒曜石製のナイフ形石器が1点出土した記録があることから、旧石器時代と平安時代の遺跡とされている。しかし、これまでにこの遺跡内で発掘調査が実施された経緯はなく、遺跡の状況は不明であった。このようにすでに造成済みであるものの、遺跡が残されている可能性がある場所について、どのように保護策をとるべきか長野県教育委員会の意見を聞くために、9月4日に県教育委員会文化財・生涯学習課と町教育委員会総務教育係、生涯学習係の三者で現地を確認しながら協議をおこなった。県教委の意見は次の5つのことを確かめるための確認調査を実施すべきとのことであった。①グラウンドの東側は盛り土されている可能性が高いので、盛り土の状況とその下に遺跡が残されているか確認すること、②盛り土と切り土の境界がどのあたりにあるか確認すること、③切り土されているという西側には遺跡が残されていないか確認すること、④校舎の南側で遺跡が残されているかを確認すること、⑤テニスコートの周辺で旧石器時代の遺物包含層が残されているかを確認すること、の5点である。この意見に従って調査を実施することになり、調査時期については中学校と協議し、部活動などの影響が少ない11月22日から調査をおこなうことになった。①については図39のトレンチ1～5、②はトレンチ6、③はトレンチ7、④はトレンチ8、⑤はプールの南側のテニスコート脇で法面の地層を調査した。

C. 調査の方法

盛り土が施されていると考えられたグラウンドの東側については約80mの直線上に20m間隔で5箇所のトレンチを設定した（図39トレンチ1～5）。5m×3mをバックホウ（0.5クラス）で慎重に掘削してもらい、旧表土と思われる黒褐色土が出たところで重機による掘削をやめ、その下は1.5m×0.8mの範囲を手掘りによって掘り下げた。トレンチ6はバックホウによって長さ約15mを約1mの幅で、1.2m程度の深さで掘り、地層の状況を確認した。トレンチ7も同様にバックホウによって掘削し、3m×1m程度の範囲を1.2m程度掘り下げた。トレンチ8は草の生えた表土15cm程度を小型のバックホウで剥ぎ取った後、手掘りによって掘り下げた。

D. 調査の結果

トレンチ1～5では予想通り埋め土の下には旧表土があり、遺物包含層が残されていることを確認した。グラ

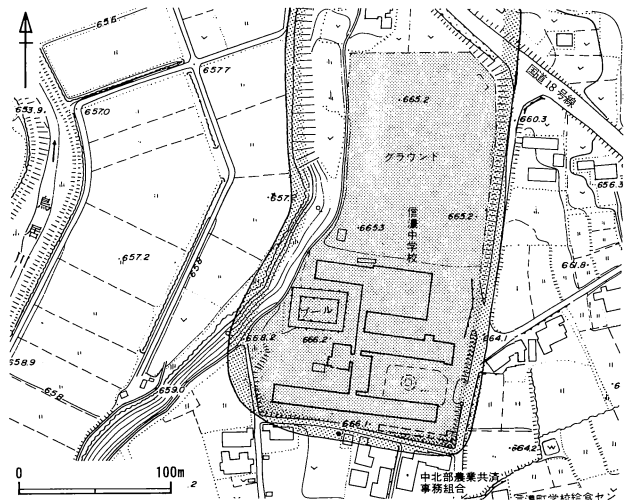


図38 柳原遺跡の範囲と調査地の位置

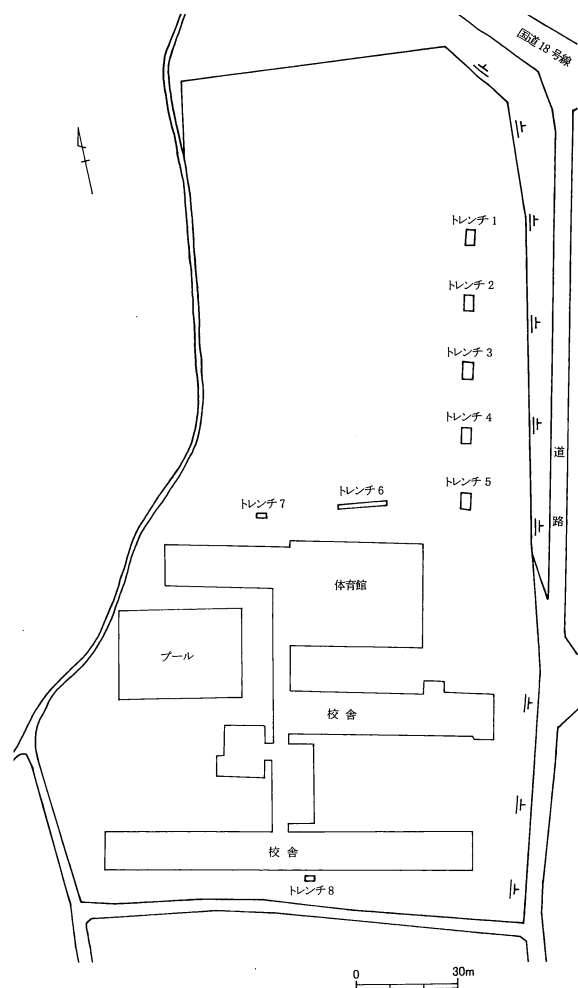


図39 柳原遺跡の調査位置

- I 黒褐色土(Hue5YR2/1)
粘性なし、しまりあり
- II 黒褐色土(Hue5YR2/1)
粘性なし、しまりあり
灰色の繊維状のものが混ざる
- III 褐色土(Hue7.5YR4/6)
粘性あり、しまりあり
- IV 黄褐色粘質土(Hue10YR5/8)
粘性あり、しまりあり
- V 黒褐色土(Hue5YR2/1)
粘性なし、しまりあり
- VI 灰オリーブ粘土(Hue7.5Y5/2)
粘性あり、しまりあり
黒褐色土が混ざる
- VII 黄褐色粘質土(Hue10YR5/6)
粘性あり、しまりあり
- VIII オリーブ黒色中粒砂(Hue7.5Y3/1)
- IX 灰色中粒砂(Hue7.5Y4/1)
- X 浅黄色粘土(Hue2.5Y7/4)
粘性あり、しまりあり
上部にリモナイト汚染あり
植物の根を含む
- XI にぶい黄色砂礫(Hue2.5YR6/4)
粘性なし、しまりあり
～2cmの礫が混ざる
リモナイト汚染あり
- XII にぶい黄褐色シルト(Hue10YR6/4)
粘性あり、しまりあり
リモナイト汚染あり

・ 柱状図記載位置
■ 重機掘削範囲

6 7
トレンチ 7

グラウンド

8 9 10 11 12 13 14 15 16
トレンチ 6

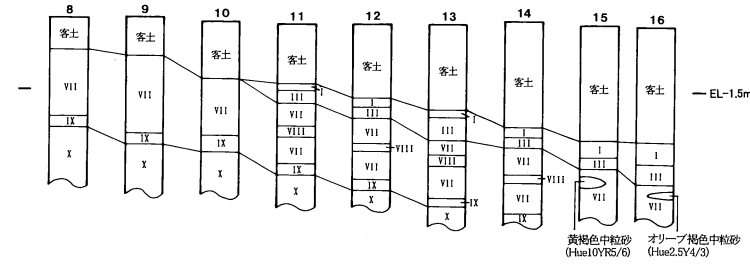
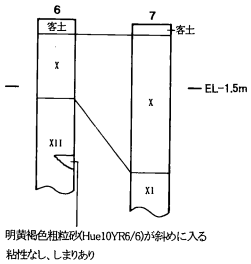
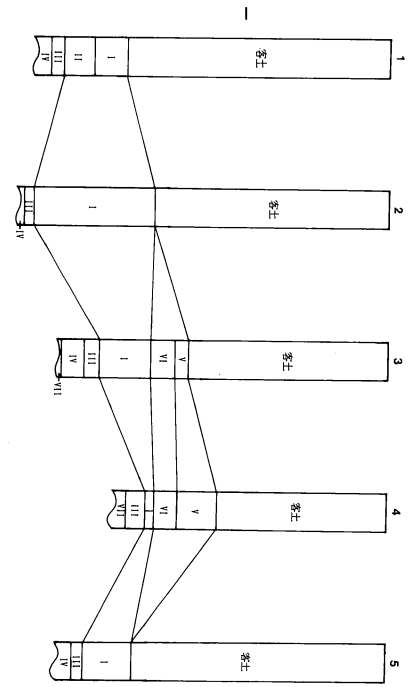
1
トレンチ 1

2
トレンチ 2

3
トレンチ 3

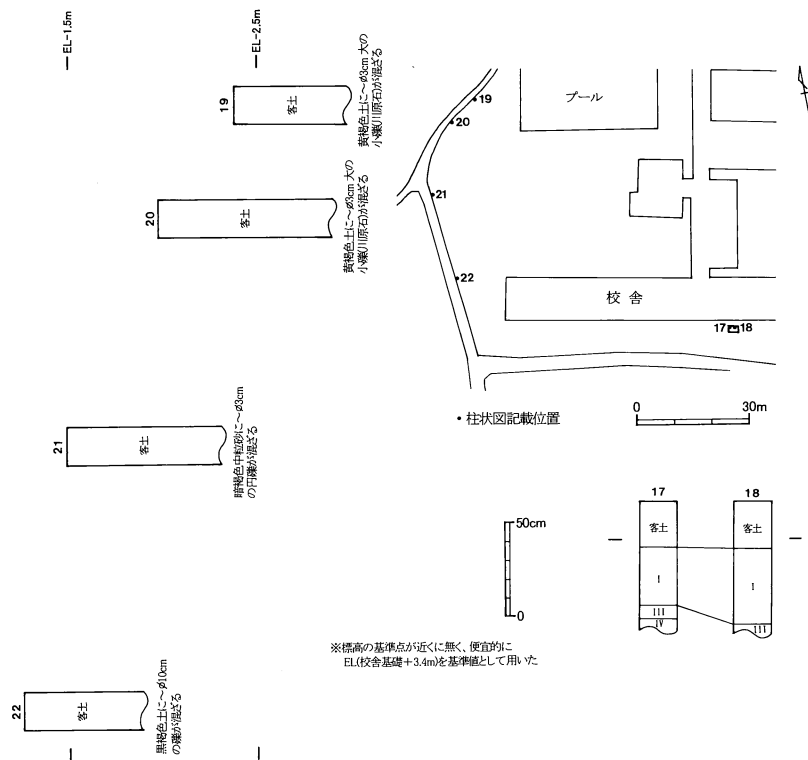
4
トレンチ 4

5
トレンチ 5



※標高の基準点が近くに無く、便宜的にEL(コンクリートブロックの端+60cm)を基準値として用いた

図40 柳原遺跡の土層(1)



・ 柱状図記載位置



※標高の基準点が近くに無く、便宜的にEL(校舎基礎+3.4m)を基準値として用いた

図41 柳原遺跡の土層(2)

ンドの東側は厚いところで1.4m程度、浅いところでも1mの盛り土があり、その下に旧表土と思われる黒褐色土が確認できた(図40のI黒褐色土、II黒褐色土)。トレンチ2ではこの層から平安時代のもと思われる土師器が出土した。また、トレンチ3、4ではVI灰オリーブ粘土層があり、水田の痕跡とも考えられ、かつて水田があったことが推測できた。トレンチ4からはVII層上の耕作土(V層)から珠洲焼の破片が出土した。IV層以下は粘土質の土層となる。今回の調査で旧石器時代の遺物は出土しなかったことと、地層のようすから旧石器時代には完全に陸化した状況になっていなかったと思われることから、トレンチ1～5の地点には旧石器時代の遺跡がある可能性は低いと判断した。

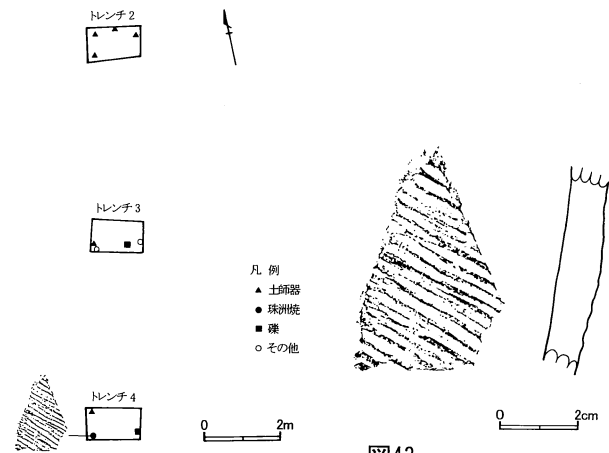


図42 柳原遺跡の遺物の分布

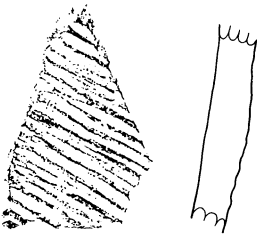


図43 柳原遺跡出土の珠洲焼

トレンチ6ではその柱状図を見ると、柱状図11～16で黒褐色土(I層)の上部を削った後、客土されていることがわかる。よって、古代、中世の遺物を包含するI層があまり残されていないために、グラウンドの中央部においても遺跡が残されている可能性が低いと考えられる。柱状図8～10では遺物包含層部分は切り土によって完全に取り去られていることがわかる。トレンチ7も同様に削平を受け、かつ、粘土層、シルト層、砂礫層などの水成層であることから、旧石器時代の遺跡が残されている可能性もほとんどないものと思われる。

トレンチ8では客土の下に旧表土以下の地層が残されていたが(図41)、遺構や遺物は出土しなかった。この周囲は駐輪場や倉庫などが建設されており、全く改変を受けずに残されている場所はわずかであると思われる。

プールの南側のテニスコート脇では旧石器時代の地層が残されているか確認するために法面を手掘りにより削ってみたが、すべて客土であることがわかった。よって、過去にテニスコートから出土した旧石器時代の石器についてはその出土位置を特定することができなかった。テニスコート造成時に搬入された土に石器が含まれていた可能性も含め、再検討が必要である。

E. 出土遺物

トレンチ2では土師器の破片が4点出土した(図42)。小片であり時期を特定することは困難であるが、周囲の遺跡との関係から、概ね平安時代のもと考えておきたい。トレンチ4からは珠洲焼の破片(図43)が出土した。甕の破片と思われ、珠洲焼がこの地域に流通した室町時代の所産と考えられる。

F. まとめ

以上のような調査の結果から、グラウンドの東側3分の1の範囲に遺跡が残されていることがわかった。時代は古代と中世であり、旧石器時代の遺跡がある可能性は低いと思われる。よって、遺跡が残されているこの地域に校舎等の建物を建てる計画になった場合には本調査が必要である。

10. 一里塚遺跡(2006個人住宅地点)

A. 概要

所在地 信濃町大字古間字一里塚966-6
 原因 個人住宅建設
 調査方法 試掘調査
 調査面積 8 m²
 調査期間 平成18年9月28日～9月30日
 出土遺物点数 16点

B. 調査に至る経緯と調査結果

一里塚遺跡内で住宅の建設が計画されたため、当該地の遺跡の状況を確認するために試掘調査を実施した。道路よりも若干高く、北東側へ緩やかに下る地形で、畑地として利用されていた場所である(図44)。基礎工事予定地に1.5m×0.8mの試掘用のトレンチを6ヶ所設置して手掘りをおこない、遺物が出土した地点(トレンチ4)のみ拡張した(図45)。地層は10cm程

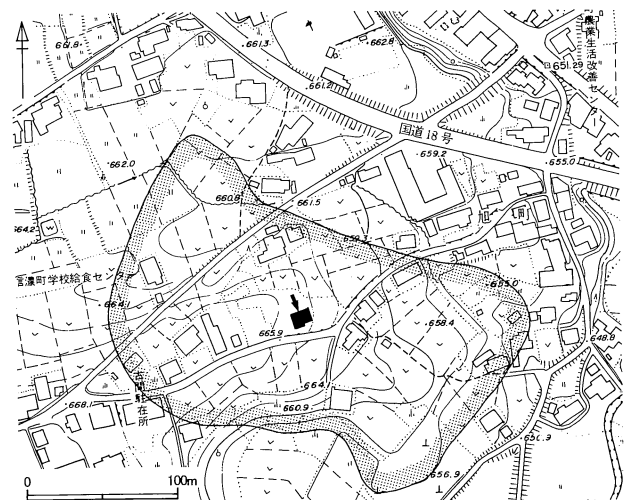


図44 一里塚遺跡の範囲と調査地の位置

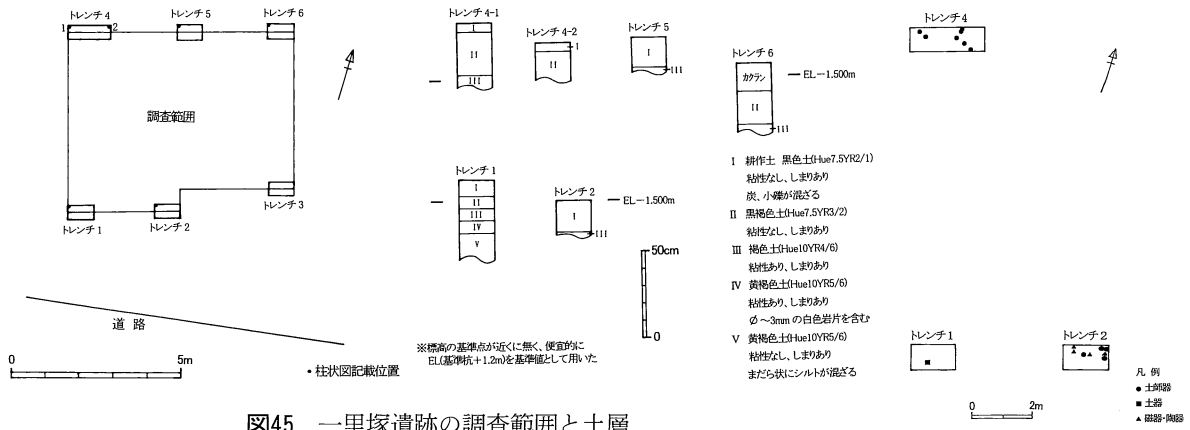


図45 一里塚遺跡の調査範囲と土層

図46 一里塚遺跡の遺物の分布

の耕作土の下に黒ボク土、黄褐色のローム層が堆積していた。遺物が16点出土したが(図46)、いずれも耕作土中からの出土で、攪乱を受けない地層から遺構・遺物は確認できなかったことから、本調査は必要ないと判断した。遺物は土師器と陶磁器、素焼きの土器であった。小片のために時期を特定するのは困難であるが、土師器は概ね平安時代、陶磁器と素焼きの土器は近世以降のものとしておきたい。

11. 諏訪ノ原遺跡 (2006個人住宅地点)

A. 概要

所在地	信濃町大字富濃字諏訪ノ原1906-9
原因	個人住宅建設
調査方法	試掘調査
調査面積	5.1㎡
調査期間	平成18年 9月13日
出土遺物点数	15点

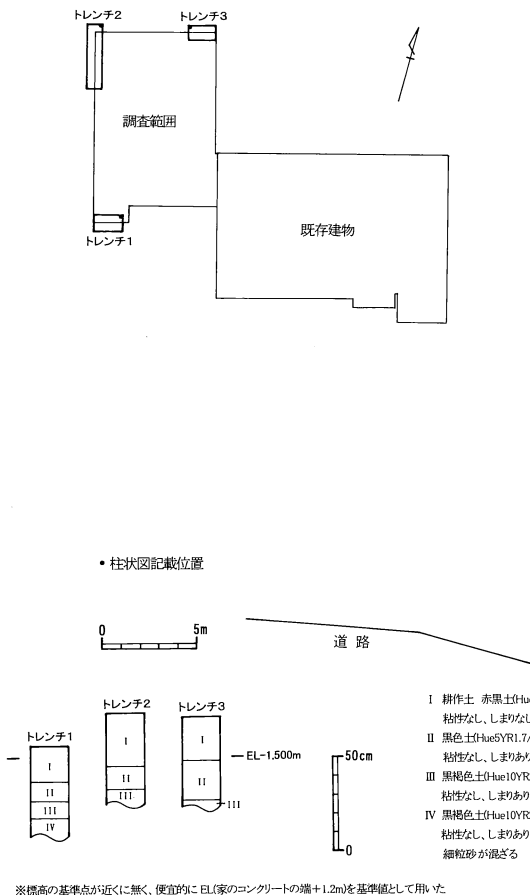
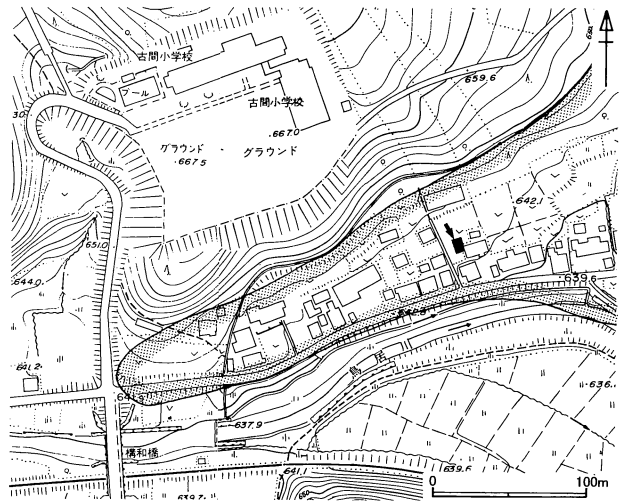


図48 諏訪ノ原遺跡の調査範囲と土層

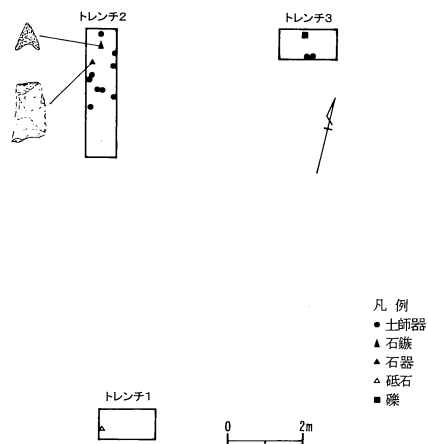


図49 諏訪ノ原遺跡の遺物の分布

B. 調査に至る経緯と調査結果

諏訪ノ原遺跡内で住宅の増築部分の建設が計画されたため、当該地の遺跡の状況を確認するために試掘調査を実施した。地形はほぼ平坦で、現状は畑であった(図47)。基礎工事予定地に1.5m×0.8mの試掘用のトレンチを3ヶ所設置して、基礎工事で掘削する予定の深さ約50cmまで手掘りをおこなった。遺物が出土した地点のみ拡張し(トレンチ2)、遺物の広がりを確認した(図48)。地層は耕作土の下に黒ボク土が厚く堆積していた。遺物は石器2点と土師器である(図49)。縄文土器は出土しなかった。石器はいずれも無斑晶質安山岩製で縄文時代の石鏃とスクレイパーである(図50)。土師器片はいずれも幅2cm程度の小片であり、時期を特定するのは難しく、概ね平安時代としておきたい。遺物の多くは耕作土から出土しており、遺構も確認できなかったことから、遺跡の縁辺部と考えられ、本調査は必要ないと判断した。

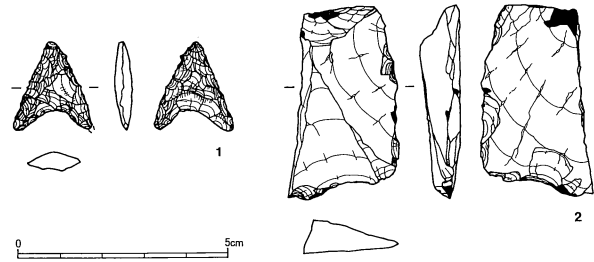


図50 諏訪ノ原遺跡出土の石器

12. 諏訪ノ原遺跡

A. 概要

所在地	信濃町大字富濃字諏訪ノ原2010-2
原因	倉庫建設
調査方法	工事立会
調査面積	700㎡(工事面積)
調査期間	平成18年9月4日
出土遺物点数	0点

B. 調査に至る経緯と調査結果

諏訪ノ原遺跡内で倉庫の建設が計画されたが、既存の建物を解体した後、ほぼ同じ位置に建設する計画であったため、既存の建物の基礎工事をおこなった際とこれを撤去する際に大きく改変されてしまい、遺跡が残されていない可能性が高かったため、工事立会とし、基礎工事の掘削時に状況確認をおこなった(図51)。

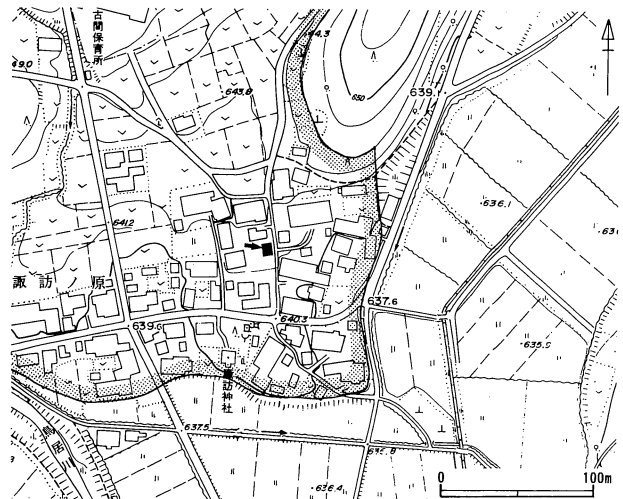


図51 諏訪ノ原遺跡の範囲と調査地の位置

文献

- 小林達雄 1982 伊勢見山遺跡. 長野県史考古学資料編 全一卷(2)主要遺跡(北・東信). 57-62.
- 谷和隆・大竹憲昭 2003 野尻湖遺跡群における石器文化の変遷. 第15回長野県旧石器文化研究交流会シンポジウム「野尻湖遺跡群の旧石器時代編年」発表資料. 23-57.
- 長野県埋蔵文化財センター 2000 上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書15 信濃町内その1 日向林B遺跡、日向林A遺跡、七ツ栗遺跡、大平B遺跡. 275p.
- 中村由克 1992 長野県上ノ原遺跡における細石器文化の遺構. 考古学ジャーナル, 342, 42-44・344, 33-36.
- 野尻湖人類考古グループ 1987 II第2回～第4回野尻湖陸上発掘の考古学的成果. 野尻湖遺跡群の旧石器文化I. 21-28.
- 野尻湖人類考古グループ 1994 野尻湖遺跡群における文化層と旧石器文化. 野尻湖博物館研究報告, 2, 1-16.

表6 清明台遺跡の全遺物リスト(1) ※礫を除く

遺物番号	図番号	遺物名	石材	母岩	地層	標高	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備考
1	10	撿器片	An	An(2)-2	カクラン	671.749	6.8	4.9	1.4	47.13	
2		剥片	An	An(1)-18	カクラン	671.659	2.8	2.0	0.6	2.74	
3		剥片	An	An(1)-3	カクラン	671.709	1.3	1.7	0.2	0.64	
4		剥片	An	An(2)-9	カクラン	671.639	4.6	3.1	2.2	20.99	
5		剥片	An	An(1)-18	カクラン	671.599	2.4	3.0	1.2	9.20	
6		剥片	Ob	Ob-11	カクラン	671.689	1.1	1.5	0.6	0.59	
7		剥片	An	An(1)-9	カクラン	671.609	3.3	3.4	0.9	8.24	
8		剥片	An	An(1)-9	カクラン	671.519	1.6	1.9	0.5	0.79	
9		剥片	An	An(1)-18	カクラン	671.689	2.3	1.5	0.5	1.07	
10		剥片	An	An(1)-18	カクラン	671.609	2.1	3.6	0.7	6.07	
11		剥片	An	An(1)-9	カクラン	671.509	1.0	1.8	0.2	0.36	
12		剥片	An	An(1)-9	III下	671.499	1.8	4.3	0.5	3.26	
13		剥片	An	An(2)-6	カクラン	671.589	2.5	3.2	1.4	10.61	
15		剥片	An	An(1)-16	IV上	671.559	0.8	0.9	0.2	0.12	
16		剥片	An	An(1)-16	III下	671.619	1.8	0.7	0.3	0.35	
18		剥片	Tu	Tu-14	IV中	671.509	3.0	3.7	1.8	17.91	
19		剥片	An	An(2)-4	IV中	671.539	1.8	3.8	1.0	8.14	
20		剥片	Tu	Tu-3	IV上	671.589	3.7	2.0	1.5	8.69	
21		剥片	An	An(1)-10	IV上	671.509	0.7	1.1	0.2	0.14	
22		欠番									
23		欠番	An	An(1)-5	カクラン	671.669	3.0	2.4	0.9	7.00	
24		欠番									
25		剥片	Ch	Ch-11	IV上	671.549	1.7	1.9	0.6	1.66	
26		剥片	An	An(2)-6	IV上	671.519	2.2	2.0	0.8	4.35	
27		剥片	Ch	Ch-9	IV上	671.499	2.6	1.2	0.9	2.67	
28		剥片	Tu	Tu-7	IV上	671.529	3.4	3.5	1.0	9.86	
29		剥片	An	An(1)-4	IV上	671.449	2.7	3.0	1.7	13.79	
30		剥片	Ch	Ch-3	IV上	671.429	3.1	3.1	0.9	9.10	
31		剥片	Ag	Ag-3	IV上	671.459	2.5	1.7	1.2	4.02	
32		剥片	Tu	Tu-10	IV上	671.489	1.0	1.5	0.7	1.13	
33		剥片	Tu	Tu-4	III下	671.469	2.0	2.6	0.8	3.03	
35		剥片	Ob	Ob-10	III上	671.519	1.7	1.5	0.5	0.35	
37		剥片	An	An(1)-17	III下	671.499	1.3	0.4	0.1	0.15	
38		剥片	Ob	Ob-12	カクラン	671.549	1.0	1.5	0.5	0.62	
39		剥片	An	An(2)-8	III下	671.429	3.1	4.0	0.9	10.14	
40		剥片	An	An(1)-5	IV上	671.349	1.2	0.7	0.2	0.20	
41		剥片	An	An(1)-7	カクラン	671.489	1.8	2.4	0.5	1.31	
42		剥片	Ge	Ge-2	カクラン	671.339	2.4	2.8	0.6	3.34	
43		剥片	Ch	Ch-9	カクラン	671.429	2.3	1.3	0.9	3.58	
44		剥片	Ob	Ob-3	カクラン	671.329	2.4	3.3	1.2	7.35	
45		剥片	An	An(1)-9	カクラン	671.329	1.2	2.2	0.6	1.46	
46		剥片	An	An(1)-18	IV中	671.279	4.4	3.0	1.7	18.11	
47		剥片	An	An(1)-4	IV中	671.279	3.8	1.9	1.1	8.02	
48		剥片	An	An(2)-1	カクラン	671.349	2.0	3.5	0.7	3.45	
49	27	剥片	An	An(1)-2	カクラン	671.829	5.3	5.5	1.1	25.01	
50		剥片	An	An(1)-15	カクラン	671.449	2.9	4.0	1.2	12.96	
51		剥片	An	An(1)-3	IV中	671.449	1.7	0.9	0.4	0.72	
52		剥片	An	An(1)-12	IV中	671.449	4.2	2.3	1.6	14.93	
53		剥片	An	An(2)-1	IV中	671.459	2.0	2.5	1.0	4.52	
54		剥片	An	An(1)-5	IV上	671.549	0.9	1.4	0.2	0.23	
55		剥片	An	An(1)-18	IV上	671.559	2.7	2.9	0.7	4.26	
56		剥片	An	An(1)-18	IV上	671.509	1.3	2.4	0.9	2.12	
57		剥片	An	An(1)-18	IV上	671.529	2.9	2.1	0.5	3.60	
58		剥片	An	An(2)-6	IV上	671.559	1.7	2.5	0.9	2.84	
59	7	ナイフ形石器	An	An(1)-6	III上	671.659	3.0	1.9	0.7	2.91	
60		剥片	An	An(2)-1	IV中	671.469	1.3	2.4	0.4	0.86	
61		剥片	Ge	Ge-4	II上	671.989	2.3	2.8	1.3	8.74	
62		剥片	An	An(1)-9	II上	671.709	2.0	3.0	1.1	5.64	
63	14	撿器片	Ch	Ch-2	III上	671.639	4.1	3.8	1.8	19.63	
65		剥片	Tu	Tu-5	III中	671.489	2.8	2.1	0.8	4.58	
66		剥片	An	An(2)-1	II上	671.429	3.2	3.5	1.1	10.79	
67		欠番									
68		欠番	An	An(1)-11	カクラン	671.369	3.6	5.3	0.8	15.22	
70		剥片	An	An(1)-11	II中	671.199	3.2	4.8	1.1	11.45	
71		剥片	Tu	Tu-2	II上	671.519	1.5	1.1	0.5	0.40	
72		剥片	Ge	Ge-4	II上	671.509	2.3	1.2	0.4	0.66	
73		剥片	An	An(1)-10	III上	671.099	1.8	1.3	0.3	0.54	
74		剥片	An	An(2)-6	III上	671.149	2.1	5.6	0.8	8.12	
75		剥片	Ch	Ch-2	I中	671.819	1.7	1.1	0.5	0.79	
78		剥片	Ch	Ch-10	カクラン	671.289	2.1	1.2	0.6	1.69	
79		石核	Ob	Ob-6	カクラン	670.989	2.5	3.9	1.6	8.37	
80		剥片	Ch	Ch-9	III上	671.069	2.4	1.2	0.5	1.05	
81		剥片	An	An(1)-18	I中	671.239	1.9	2.8	0.3	1.18	
82		剥片	An	An(2)-1	III中	671.039	2.3	2.8	0.8	4.52	
83		剥片	An	An(1)-18	III中	671.059	1.7	1.4	0.8	4.52	
84		剥片	Ag	Ag-1	III中	671.109	1.2	1.2	0.5	0.70	
85		剥片	Tu	Tu-14	III中	671.099	2.1	1.1	0.6	1.22	
86		剥片	Ge	Ge-5	III下	671.039	1.7	1.0	0.5	0.69	
87		剥片	Ag	Ag-1	III中	671.069	1.3	1.7	0.2	0.36	
88		剥片	An	An(2)-1	II下	671.139	3.4	1.4	0.7	2.73	
89		剥片	Ch	Ch-8	IV上	670.969	5.2	3.2	1.4	21.81	
90		剥片	An	An(2)-2	IV中	671.309	4.7	4.7	1.8	33.92	
91		剥片	An	An(1)-5	IV中	671.329	36.0	1.3	0.3	0.10	
92		剥片	Ob	Ob-11	IV上	671.339	1.5	0.6	0.5	0.24	
93		剥片	An	An(1)-9	IV中	671.289	1.0	0.6	0.3	0.17	
103		剥片	An	An(1)-18	IV中	671.269	1.3	2.5	0.6	1.55	
105		剥片	An	An(1)-18	IV中	671.269	2.8	1.8	0.7	2.88	
107	41	礫石	Rh	Rh-	IV中	671.239	4.9	3.6	3.1	76.20	
108		剥片	Tu	Tu-11	IV中	671.259	1.8	0.9	8.0	1.32	
113	40	礫石	Tu	Tu-9	III下	671.299	6.3	3.3	1.9	32.04	
114		剥片	An	An(1)-18	III下	671.249	1.9	1.8	0.6	1.65	
115		剥片	Ob	Ob-12	III上	671.229	1.1	1.3	0.4	0.38	
120		剥片	Ag	Ag-2	IV上	671.239	1.5	2.0	0.5	0.68	
121		剥片	An	An(1)-4	IV中	671.169	1.5	2.0	0.4	1.10	
122	5	ナイフ形石器	An	An(1)-6	IV中	671.199	1.4	1.1	0.5	0.49	442と接合
124		石核	An	An(1)-18	IV中	671.209	3.3	5.8	2.1	36.75	
126		剥片	An	An(1)-14	IV中	671.139	0.8	0.9	0.2	0.12	
129		剥片	Tu	Tu-11	IV中	671.199	1.6	1.7	1.0	2.10	
131		剥片	Ob	Ob-8	IV中	671.189	1.6	1.5	0.6	1.31	
138		剥片	An	An(2)-7	IV上	671.239	0.9	0.8	0.2	0.12	
140		剥片	An	An(2)-1	IV中	671.219	4.0	3.8	2.2	32.28	261と接合
142		剥片	An	An(2)-4	IV中	671.269	3.9	5.7	1.8	40.72	
143	11	撿器片	An	An(1)-18	IV中	671.249	2.4	2.5	0.9	3.94	
146		剥片	An	An(1)-9	IV中	671.259	1.4	4.0	0.7	2.96	
147		剥片	Tu	Tu-9	カクラン	671.249	1.6	2.6	1.0	3.23	
148		剥片	An	An(1)-18	IV上	671.259	3.1	2.6	0.5	4.19	
149		剥片	An	An(1)-15	IV上	671.239	1.4	2.4	0.5	1.48	
150		剥片	An	An(2)-9	IV上	671.199	4.8	4.2	2.1	21.65	
152		剥片	An	An(1)-7	IV中	671.149	3.6	3.0	1.4	13.21	
153		剥片	An	An(1)-4	IV中	671.159	2.0	1.5	0.5	1.00	
156		剥片	Ch	Ch-4	IV中	671.129	3.3	2.1	1.0	7.94	
157		剥片	An	An(1)-18	IV上	671.129	2.6	2.5	1.1	4.85	
159		剥片	An	An(2)-15	IV中	671.079	2.2	2.3	0.9	2.65	
160		剥片	An	An(1)-7	IV中	671.139	1.4	1.4	0.3	0.66	
161	31	ナイフ形石器	Ob	Ob-2	IV上	671.109	3.5	8.0	1.7	32.77	
162	2	ナイフ形石器	Ob	Ob-2	IV上	671.169	2.8	1.0	0.9	1.85	
163	37	石核	Ch	Ch-9	IV上	671.239	2.2	4.0	2.0	22.97	202と接合
164	1	ナイフ形石器	Ob	Ob-8	IV上	671.199	2.3	1.4	0.7	1.77	
165		剥片	An	An(2)-6	IV上	671.199	2.6	3.5	0.9	5.26	
166		剥片	Ob	Ob-3	IV中	671.109	1.8	2.4	0.5	1.40	
167		剥片	An	An(1)-7	IV中	671.129	1.6	1.5	0.4	1.14	
168		剥片	An	An(1)-7	IV中	671.169	0.7	1.2	0.2	0.14	
169		剥片	Ge	Ge-1	IV中	671.149	0.9	0.5	0.1	0.07	
170		剥片	An	An(1)-5	IV中	671.149	2.2	0.4	0.1	0.07	
171		石核	Ch	Ch-1	IV中	671.139	3.7	3.4	1.4	16.37	
172		剥片	An	An(1)-16	IV中	671.169	2.8	1.5	0.8	3.29	
173		剥片	An	An(1)-18	IV中	671.169	1.1	1.4	0.3	0.44	
174		剥片	An	An(1)-16	IV中	671.139	1.0	1.8	0.3	0.51	
175		剥片	Ob	Ob-1	IV中	671.149	2.0	2.0	0.6	2.04	
176	24	剥片	Tu	Tu-15	IV中	671.099	6.6	3.7	1.4		

表7 清明台遺跡の全遺物リスト(2) ※礫を除く

遺物番号	図番号	遺物名	石材	母岩	地層	標高	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備考
321		剥片	An	An(1)-10	IV	671.139	1.4	1.4	0.3	0.62	
322		剥片	An	An(1)-14	IV	671.079	1.3	1.2	0.4	0.42	
323		剥片	Ch	Ch-7	IV	671.059	1.2	2.7	0.6	1.54	
324	4	ナイフ形石器	Ge	Ge-3	IV	671.069	3.0	1.3	0.8	2.18	
325	4	剥片	Ge	Ge-4	IV	671.109	2.2	3.5	0.8	4.36	
326		剥片	Ge	Ge-6	IV	671.079	1.0	1.0	0.4	0.28	
327		剥片	An	An(1)-8	IV	671.089	2.9	2.2	1.5	5.96	
328		剥片	An	An(2)-1	IV	671.109	1.5	2.6	0.8	2.14	
329		剥片	An	An(2)-1	IV	671.069	1.8	2.1	0.5	1.24	
330		剥片	Ge	Ge-4	IV	671.049	1.8	2.2	0.5	2.39	
331		欠番									
332		剥片	Ob	Ob-12	III	671.039	0.9	0.9	0.3	0.17	
333		剥片	An	An(1)-6	IV	671.199	1.9	2.5	0.6	3.07	
334		剥片	An	An(1)-2	IV	671.159	1.5	1.0	0.3	0.47	
335		剥片	An	An(1)-8	IV	671.159	2.1	1.5	0.2	0.38	
336		剥片	Ob	Ob-11	IV	671.159	2.0	2.1	0.6	1.62	
337		剥片	Ge	Ge-5	IV	671.129	2.1	1.0	0.4	0.57	
338	22	二次加工のある剥片	Ob	Ob-2	IV	671.149	3.0	4.0	1.5	3.86	
339	28	剥片	Tu	Tu-12	IV	671.149	2.2	2.1	0.6	2.86	
340	28	剥片	Ob	Ob-11	IV	671.019	2.2	1.7	0.6	2.42	
341		剥片	An	An(1)-9	IV	671.009	3.8	1.7	0.5	2.64	
342		剥片	An	An(1)-16	IV	671.059	1.8	2.0	1.0	2.47	
343		剥片	Tu	Tu-8	IV	671.009	6.3	4.3	1.5	36.23	
344		剥片	Ch	Ch-5	IV	670.859	1.0	1.6	0.4	0.63	
345		剥片	Ag	Ag-1	IV	670.899	2.2	1.6	0.7	2.17	
347		剥片	An	An(1)-9	IV	670.999	1.6	0.8	0.2	0.30	
348		剥片	An	An(1)-10	IV	670.959	2.0	2.3	0.4	1.48	
349		剥片	Ob	Ob-9	IV	670.999	1.3	0.6	0.3	0.23	
353		剥片	An	An(1)-12	IV	671.329	4.7	2.8	1.3	15.30	
354		剥片	An	An(1)-6	IV	671.439	0.9	1.9	0.4	1.00	
355	19	二次加工のある剥片	An	An(1)-16	IV	671.429	2.9	1.5	0.7	2.31	
356		剥片	An	An(1)-9	IV	671.439	1.0	1.2	0.4	0.36	
357		剥片	Ch	Ch-3	IV	671.469	2.0	1.7	0.8	1.65	
359		剥片	An	An(1)-12	IV	671.399	2.6	1.6	1.0	5.44	
360		剥片	An	An(2)-6	IV	671.379	2.5	2.3	0.8	3.93	
361		剥片	Ob	Ob-11	IV	671.379	0.6	1.5	0.4	0.21	
362		剥片	An	An(1)-7	IV	671.369	2.2	2.1	0.6	2.65	
363		剥片	An	An(1)-6	IV	671.329	0.6	1.3	0.3	0.15	
364		剥片	An	An(1)-18	IV	671.349	3.0	4.0	1.5	3.66	
365	34	石核	Tu	Tu-6	IV	671.359	6.8	8.7	2.8	170.28	
367		剥片	Tu	Tu-16	IV	671.299	1.8	2.5	0.9	3.84	
368		剥片	An	An(1)-1	IV	671.299	1.8	3.6	1.0	5.61	
372		剥片	An	An(2)-6	IV	671.409	3.0	2.1	0.7	2.68	
373		剥片	An	An(1)-2	V	671.289	2.9	1.8	1.0	4.06	
374		石核	Ch	Ch-5	V	671.249	3.0	3.0	1.6	16.30	275と接合
375		剥片	An	An(2)-6	IV	671.289	3.1	2.2	1.0	6.58	
376		剥片	An	An(2)-7	IV	671.289	4.4	0.8	0.7	1.72	
377		剥片	An	An(1)-14	IV	671.259	0.8	1.4	0.2	0.20	
379		剥片	An	An(1)-18	IV	671.309	2.6	2.8	1.3	8.08	
382		剥片	An	An(1)-8	IV	671.319	2.9	3.5	0.8	8.00	
385		剥片	Ob	Ob-11	IV	671.299	1.1	1.4	0.4	0.43	
386		剥片	An	An(2)-1	IV	671.289	2.0	3.3	0.6	2.97	
387	17	挟入石器	Tu	Tu-16	IV	671.279	2.9	3.3	0.9	6.00	
388	36	石核	Ob	Ob-7	IV	671.279	1.9	2.0	1.4	4.52	
389		剥片	Ob	Ob-4	IV	671.329	1.9	2.6	0.7	2.85	
390		剥片	An	An(1)-16	IV	671.309	2.9	1.8	1.0	3.85	
391		剥片	An	An(1)-15	IV	671.309	1.9	2.5	0.8	2.86	434と接合
392		剥片	An	An(1)-7	IV	671.379	1.5	1.4	0.7	0.90	
393		剥片	An	An(1)-16	IV	671.279	1.1	1.1	0.4	0.35	
394		剥片	An	An(2)-7	IV	671.279	0.9	1.2	0.4	0.34	
395		剥片	Ag	Ag-3	IV	671.279	0.7	1.8	0.3	0.38	
397		石核	An	An(1)-18	IV	671.329	2.3	3.2	1.5	9.31	
399		剥片	An	An(1)-10	IV	671.279	2.3	3.1	0.8	3.15	
400	6	ナイフ形石器	An	An(1)-7	IV	671.299	3.2	1.8	0.6	2.70	
401		剥片	An	An(1)-7	IV	671.279	0.8	1.9	0.4	0.90	
402	26	剥片	An	An(1)-17	IV	671.269	4.6	5.4	1.6	30.08	
403		剥片	Ob	Ob-1	IV	671.279	1.9	1.6	0.8	1.93	
404		剥片	Ob	Ob-11	IV	671.169	0.9	1.1	0.3	0.22	
405		剥片	An	An(1)-10	IV	671.149	1.7	1.3	0.4	0.63	
406		剥片	An	An(1)-14	IV	671.139	2.3	1.2	0.2	0.42	
407		剥片	An	An(1)-4	IV	671.149	2.1	2.6	0.7	3.71	
408		剥片	An	An(1)-18	IV	671.139	3.3	3.3	0.8	8.78	
409		剥片	Ge	Ge-2	IV	671.149	1.1	1.5	0.3	0.27	
411		剥片	An	An(1)-4	IV	671.169	1.4	1.3	0.2	0.28	
412		剥片	An	An(2)-5	IV	671.139	2.4	2.4	0.5	2.86	
413		剥片	An	An(1)-18	IV	671.209	0.6	1.2	0.2	0.10	
414		剥片	Tu	Tu-13	IV	671.209	0.8	1.2	0.2	0.18	
415		剥片	Tu	Tu-13	IV	671.149	4.0	4.6	1.1	25.25	
416	15	挟入石器	Ch	Ch-4	IV	671.159	4.2	3.0	1.0	13.15	
417		剥片	Tu	Tu-12	IV	671.049	4.2	7.5	1.8	51.17	
419		剥片	An	An(2)-3	IV	671.099	1.4	1.3	1.0	2.90	
420		剥片	Ch	Ch-1	IV	671.079	1.6	1.6	0.8	1.75	
421		剥片	An	An(2)-3	IV	671.109	2.2	3.0	0.8	5.53	
422	16	挟入石器	Ge	Ge-2	IV	671.069	4.1	3.0	1.5	16.61	
423		剥片	An	An(1)-18	V	671.029	1.1	1.4	0.4	0.70	
424		剥片	Ge	Ge-1	IV	670.999	1.6	2.4	0.8	1.57	
425		剥片	Ob	Ob-4	IV	671.039	0.9	0.9	0.2	0.11	
428		剥片	An	An(1)-9	IV	671.019	1.7	1.9	0.4	1.10	
429		剥片	An	An(1)-18	IV	670.959	1.3	1.5	0.7	2.04	
430		剥片	An	An(2)-1	IV	670.969	2.0	2.2	0.5	1.83	
431		剥片	An	An(2)-1	IV	671.009	2.4	2.6	0.5	2.94	
432		剥片	Ch	Ch-7	IV	671.259	2.7	3.9	1.5	12.98	
433		剥片	An	An(1)-9	IV	671.269	1.3	1.4	0.8	1.11	
434		剥片	An	An(1)-15	IV	671.279	2.2	3.6	1.1	5.08	391と接合
435		剥片	An	An(2)-6	IV	671.289	1.4	2.5	0.9	1.61	
436		剥片	Ge	Ge-3	IV	670.899	1.5	2.4	0.5	1.52	
437		剥片	An	An(1)-5	IV	670.929	1.6	1.6	0.5	1.09	
438		剥片	An	An(1)-9	IV	671.029	2.7	5.4	1.0	13.56	
439	18	挟入石器	An	An(1)-6	IV	671.099	3.3	1.3	0.8	3.07	
440		剥片	An	An(2)-6	IV	671.189	2.0	1.8	0.3	0.91	
441		剥片	An	An(1)-4	IV	671.039	0.7	1.3	0.3	0.26	
442	5	ナイフ形石器	An	An(1)-6	IV	671.219	2.9	1.8	0.6	3.60	122と接合
443		剥片	Ob	Ob-11	IV	671.239	1.1	2.0	0.2	0.33	
444		剥片	An	An(2)-6	IV	671.249	0.7	1.1	0.2	0.16	
445		剥片	An	An(2)-4	IV	671.229	1.7	2.3	0.5	1.58	
446		剥片	An	An(2)-6	IV	671.289	1.4	1.3	0.3	0.47	
447		剥片	Ch	Ch-5	IV	671.229	2.2	2.0	1.0	4.11	
448		剥片	An	An(1)-9	IV	671.259	1.3	0.8	0.4	0.37	
449	25	剥片	An	An(1)-18	IV	671.309	7.7	3.2	1.3	24.99	
450		剥片	Ob	Ob-1	IV	671.329	1.6	1.5	0.7	0.94	
451		剥片	Ge	Ge-4	IV	670.969	0.5	0.5	0.2	0.10	
452		剥片	Ge	Ge-1	IV	671.039	1.7	1.3	0.3	0.60	
454		剥片	An	An(2)-6	IV	671.199	1.3	1.1	0.2	0.29	
455		剥片	An	An(1)-7	V	671.299	1.1	1.8	0.5	0.81	
456		石核	An	An(2)-9	IV	671.329	4.3	5.8	2.0	32.41	
457	21	二次加工のある剥片	An	An(1)-16	IV	671.249	2.7	1.2	0.7	2.20	
458		剥片	An	An(2)-7	IV	671.269	1.6	2.5	0.7	2.66	
460		剥片	An	An(1)-7	IV	671.279	1.2	1.3	0.2	0.44	
461	29	剥片	Ob	Ob-1	IV	671.259	2.4	3.5	1.1	8.95	
463		剥片	An	An(2)-6	IV	671.249	1.8	3.6	0.7	2.58	
464		剥片	An	An(1)-18	IV	671.259	1.5	1.0	0.3	0.50	
466		剥片	Ob	Ob-4	IV	671.319	2.8	3.2	1.5	9.81	
467		剥片	An	An(2)-4	IV	671.319	2.8	3.8	0.6	2.14	
468		剥片	An	An(1)-7	IV	671.329	1.4	2.6	0.5	2.06	

表8 清明台遺跡の礫属性表

遺物番号	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	割れあり×なし	割れの割合%	焼けあり×なし	焼け(3段階)	自然面の焼け	割れ面	平面形(長短)	平面形(角丸)	礫群No	備考
14	5.2	2.4	1.7	16	○	80	○	2	○	○	長短	角		
17	3.5	2.9	1.5	26	○	20	○	2	○	○	長短	角	5	
34	14.3	8.4	4.5	575	○	10	○	3	○	○				



1.清明台遺跡 調査の様子①



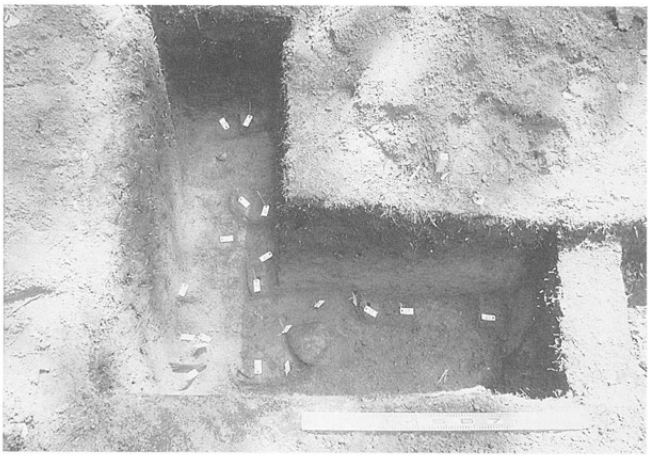
2.清明台遺跡 調査の様子②



3.清明台遺跡 遺物の分布(北から)



4.清明台遺跡 遺物の出土状況



5.清明台遺跡 遺物の出土状況(磔378周辺・遠景)



6.清明台遺跡 遺物の出土状況(磔378周辺・近景)



7.清明台遺跡 磔群1~3の検出状況(北から)



8.清明台遺跡 基本層序

写真図版 2



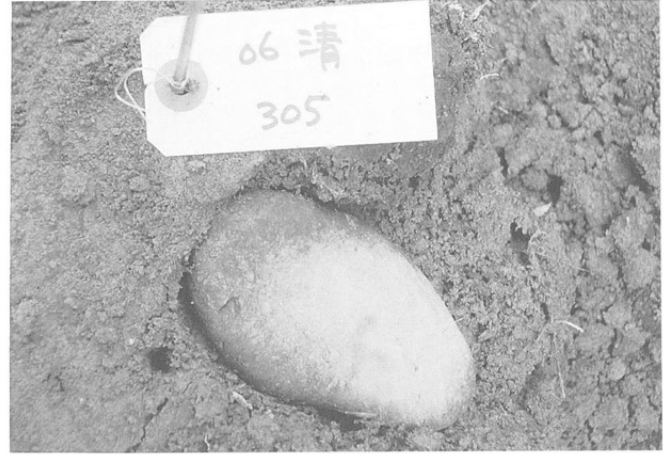
1.清明台遺跡 ナイフ形石器(図番号1)の出土状況



2.清明台遺跡 剥片(図番号31)の出土状況



3.清明台遺跡 二次加工のある剥片(図番号23)の出土状況



4.清明台遺跡 敲石(図番号39)の出土状況



5.海端遺跡 調査の様子



6.照月台遺跡 調査の様子



7.上ノ原遺跡 研究所建設予定地の調査の様子



8.上ノ原遺跡 下水道管敷設工事に伴う調査の様子



1.東裏遺跡 調査の様子



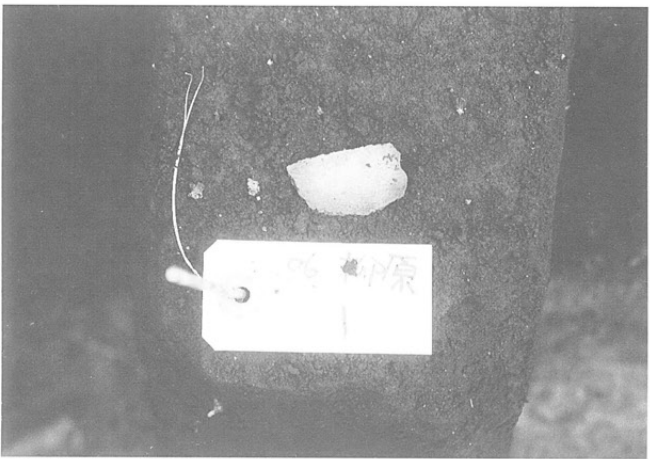
2.柳原遺跡 重機による埋め土の除去



3.柳原遺跡 調査の様子



4.柳原遺跡 トレンチ2の遺物出土状況(東から)



5.柳原遺跡 土師器の出土状況



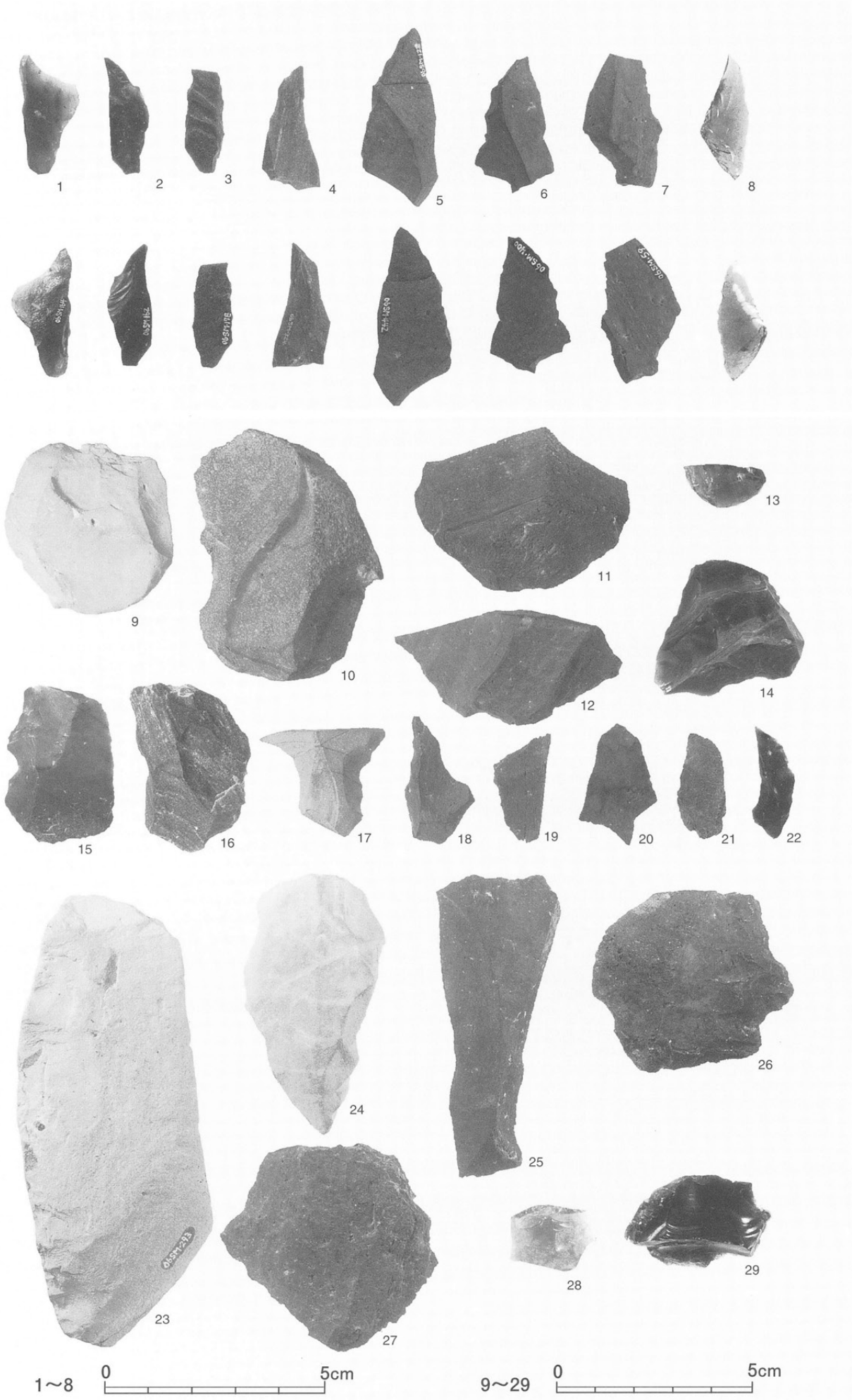
6.柳原遺跡 トレンチ6の掘削後の状況



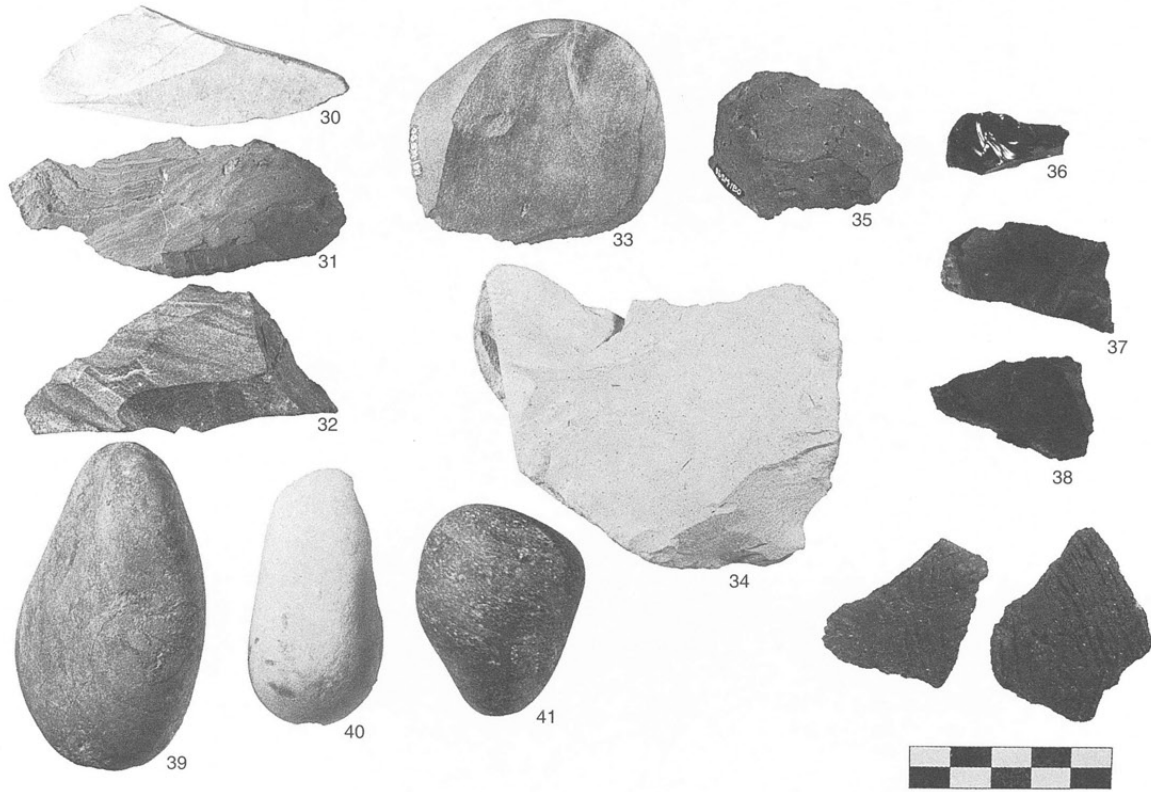
7.一里塚遺跡 調査の様子



8.諏訪ノ原遺跡 調査の様子



清明台遺跡の主な出土遺物①



1. 清明台遺跡の主な出土遺物②



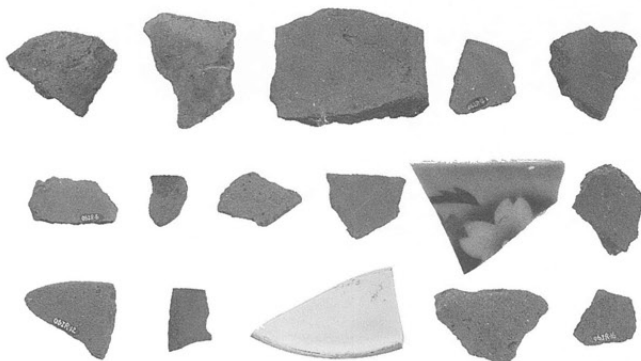
2. 海端遺跡の出土遺物



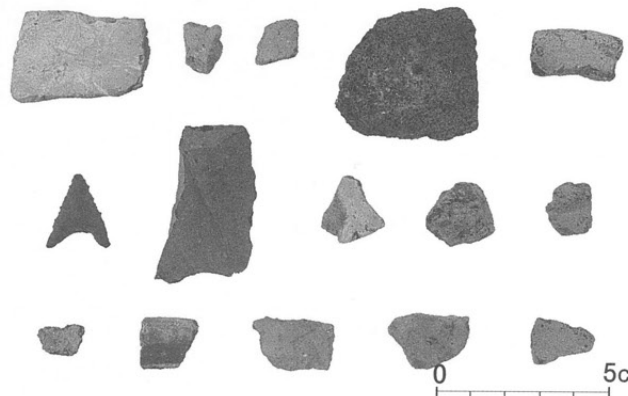
4. 柳原遺跡の出土遺物



3. 照月台遺跡の出土遺物



5. 一里塚遺跡の出土遺物



6. 諏訪ノ原遺跡の出土遺物

報告書抄録

書名	平成18年度町内遺跡発掘調査報告書
副書名	清明台遺跡ほか
シリーズ名	信濃町の埋蔵文化財
シリーズ番号	
編集者名	渡辺哲也
編集機関	信濃町教育委員会
所在地	〒389-1305 長野県上水内郡信濃町柏原428-2 TEL: 026-255-5923
発行年月日	2007年(平成19年)3月30日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物
		市町村	遺跡番号									
清明台	長野県上水内郡信濃町 大字 野尻字高山1197-363	205834	39	36度 49分 50秒	138度 11分 21秒	20060920 ～ 20060929	23.5 (工事面積57)	個人住宅 建設	散布地	旧石器時代 縄文時代	礫群 6基 配石 1基	ナイフ形石器、 搔器など463点
仲町	長野県上水内郡信濃町 大字 野尻字上ノ原540-4,544-1	205834	40	36度 49分 47秒	138度 12分 2秒	20060707	工事面積 324	個人住宅 建設	散布地			なし
海端	長野県上水内郡信濃町 大字 野尻字海端344-5	205834	32	36度 49分 46秒	138度 12分 20秒	20061107	5.9 (工事面積313)	倉庫建設	散布地	縄文時代 平安時代		縄文土器など 10点
照月台	長野県上水内郡信濃町 大字 野尻字滝沢775-13	205834	46	36度 49分 34秒	138度 11分 36秒	20060424 ～ 20060425	7.6 (工事面積971)	個人住宅 建設	散布地	平安時代		土師器など 3点
上ノ原	長野県上水内郡信濃町 大字 柏原183-2	205834	65	36度 48分 58秒	138度 11分 50秒	20060622 ～ 20060623	38 (工事面積1386)	研究施設 建設	散布地			なし
上ノ原	長野県上水内郡信濃町 大字 柏原183-2	205834	65	36度 48分 58秒	138度 11分 50秒	20061107 ～ 20061110	4.8 (工事面積213)	下水道管 敷設	散布地			なし
東裏	長野県上水内郡信濃町 大字 柏原字東裏334-2	205834	70	36度 48分 39秒	138度 12分 10秒	20060630	工事面積 311	個人住宅 建設	散布地			なし
野尻湖団地	長野県上水内郡信濃町 大字 柏原字小丸山2470-17	205834	67	36度 48分 38秒	138度 11分 58秒	20060705	工事面積 325	個人住宅 建設	散布地			なし
東裏	長野県上水内郡信濃町 大字 柏原466-27	205834	70	36度 48分 17秒	138度 12分 33秒	20060920	7.2 (工事面積393)	個人住宅 建設	散布地			なし
柳原	長野県上水内郡信濃町 大字 古間字柳原491-1	205834	85	36度 47分 57秒	138度 12分 30秒	20061122 ～ 20061127	97.6	学校建設	散布地	平安時代 中世		土師器など 11点
一里塚	長野県上水内郡信濃町 大字 古間字一里塚966-6	205834	86	36度 47分 50秒	138度 12分 41秒	20060928 ～ 20060930	8 (工事面積121)	個人住宅 建設	散布地	平安時代 近世		土師器など 16点
諏訪ノ原	長野県上水内郡信濃町 大字 富濃字諏訪ノ原1906-9	205834	102	36度 47分 57秒	138度 13分 30秒	20060913	5.1 (工事面積70)	個人住宅 建設	散布地	縄文時代 平安時代		土師器など 15点
諏訪ノ原	長野県上水内郡信濃町 大字 富濃字諏訪ノ原2010-2	205834	102	36度 47分 58秒	138度 13分 41秒	20060904	工事面積 700	倉庫建設	散布地			なし

平成18年度町内遺跡発掘調査報告書

発行 平成19年(2007)3月30日

発行者 信濃町教育委員会

〒389-1305

長野県上水内郡信濃町大字柏原428-2

TEL 026-255-5923

印刷 信毎書籍印刷株式会社

〒381-0037

長野県長野市西和田1-30-3

TEL 026-243-2105

2 0 0 7

Shinano-machi Board of Education,
Kamiminochi-gun, Nagano, 389-1305 Japan.